

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 3 年 度

(1 9 7 9 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 3 年 度

(1 9 7 8 年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員及準職員

(昭和54年2月1日現在)

所 長 教 授 前 川 暢 夫

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉澤卓也，坂東憲司，講師（非常勤）：吉田敏郎，池田宣昭，今井節朗，角田冲介，中井 準，吉見輝也，松原恒雄，技官：西尾貞子，本間トキエ，技能補佐員：細木春世

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：小原幸信，講師：泉 孝英，助手：木野稔也，大山口渥，門 政男，講師（非常勤）：日置辰一郎，太田 鋤，中島道郎，浅田高明，福間謙助，杉本幾久雄，小松幹雄，川上一郎，技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子

(胸部外科学部門)

主任教授：寺松 孝，助教授：伊藤元彦，講師：清水慶彦，助手：長瀬千秋，加藤弘文，和田洋巳，玉田二郎，講師（非常勤）：宮田暉夫，立石昭三，池田貞雄，北野司久，倉田昌彦，吉栖正之，秋山文彌，日野常稔，生島宏彦，外村聖一，伊東政敏，小林君美，人見滋樹，安倍隆二，張 炎森，技官：平井 要，技能補佐員：大槻勝也

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：鈴木康弘，講師（非常勤）：水島 裕，浜 弘道，熊沢義雄，五十嵐三都男，森川 茂，渡辺民朗，沢田英夫，馬場満男，技官：松下隆壽，小岸久美子，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，講師（非常勤）：小林 博，佐渡敏彦，徳永 徹，事務官：清水一枝，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一，講師：平井圭一，助手：前田道之，堀内正宏，講師（非常勤）：水谷昭，穂積本男，小島清秀，技官：竹内道子，事務補佐員：坪田晴子

(臨床肺生理学部門)

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：浅井信明，助手：太田和夫，講師（非常勤）：大橋啓吾，土

肥佳郎, 稲葉宣雄, 安田隆三郎, 真鍋 貴, 久野健志, 室本 仁, 市谷迪雄, 石部裕一, 仲田 祐, 田苗英次, 折田雄一, 山林 一, 山田久和, 技能補佐員: 服部央子, 石田嘉子

(事務部)

事務長: 小林 勇, 事務長補佐: 本間彰雄, 庶務掛長: 小谷雄太郎, 同主任: 近藤英子, 小林 収, 同事務官: 堀田良恵, 同技官: 田中 稔, 川原田和夫, 事務補佐員: 小倉恵美子, 經理掛長: 清水春男, 同主任: 佐藤良雄, 同事務官: 野元頼子, 奥村成和, 前野正世, 田中義郎, 事務補佐員: 中瀬安子: 収入掛長: 宇野定夫, 同主任: 畠中秀雄, 同事務官: 野田芳子, 佐竹セツ, 藤井芳克, 山本正幸, 竹内孝子, 事務補佐員: 中村房枝, 集治昌代, 患者掛長: 田口雅朗, 同主任: 室恵美子, 同事務官: 橋本敏子, 事務補佐員: 賀屋俊子, 芦田明子, 山田啓子, 管理掛長: 田中信雄, 同事務官: 前田久男, 同技官: 進士 悟, 西川景曠, 岩井昭一, 松浦 康, 小西喜一郎, 藤本清文, 同事務官: 高安忠一, 水原貞子, 渡辺光子

(動物飼育室)

技官: 飛田 勇, 門田一美, 大字雪雄, 安岡倉一, 近藤照子

(電子顕微鏡室)

技能補佐員: 森 敏博

(附属病院)

病 院 長 (兼) 教 授: 佐川弥之助

(第一内科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 前川暢夫
外来医長 (兼) 講 師: 川合 満
病棟医長 (兼) 助教授: 中西通泰
医員: 李 英徹, 医員 (研修医): 戸川真一

(第二内科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 大島駿作
外来医長 (兼) 講 師: 泉 孝英
病棟医長 (兼) 助教授: 小原幸信
医員: 西川伸一, 平田健雄, 本田和徳, 北島正則, 松井祐佐公, 藤村直樹, 満安清孝, 医員 (研修医): 橋本圭司

(外科診療科)

科 長 (兼) 教 授: 寺松 孝
外来医長 (兼) 助教授: 伊藤元彦
病棟医長 (兼) 講 師: 清水慶彦
医員: 桑原正喜, 宮本好博, 松村理司, 医員 (研修医): 住友伸一, 千原幸司

(放射線科診療部)

科 長 (兼) 教 授: 佐川弥之助
外来医長 (兼) 講 師: 浅井信明, 講師 (非常勤): 阿部光幸
医員: 島田一恵, 佐藤公彦, 関川利幸, 宮本茂充, 医員 (研修医): 野尻知里, 矢野博正, 大成功一

(検査部)

検査部長 (兼) 助教授: 久世文幸, 医員: 木下和之, 細川昌則, 北市正則 (兼), 医員 (研修医): 野尻知里 (兼), 技師長: 木津 啓, 技官: 前田清子, 黒住真史, 和田ひな, 増田 稔, 山根すま子, 技術補佐員: 中迫由美子, 技能補佐員: 橋本晴代

(放射線部)

放射線部主任 (兼) 助教授: 中西通泰, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 蔵岡信良, 技官: 大坂泰夫, 曾我部康之, 灘井智代子, 田中龍蔵, 技能補佐員: 小林 忍

(薬剤部)

薬剤部長: 桑田 宏, 薬剤主任: 澤岡平和, 技官: 藤原壽子, 川田昌子, 小林千代子, 川勝一雄, 事務主任: 宇

野初枝，事務官：関 保子

(看護部)

看護部長：細川ミツエ，看護婦長：中根文字，松田比佐子，近藤信子，西森三保子，副看護婦長：小林とよ，斎藤千鶴子，山本喜美，技官：古府静江，岩永千代子，高市政子，松本敏枝，田中松代子，小林梅野，松田富子，明石和子，小林富貴子，小川まゆみ，米山須磨子，阿部喜代子，柴田佐代子，大山峰子，岩佐純子，末田恵子，鈴木恵子，稲田ひろ子，山中祥子，小泉カスミ，榊喜久子，井藤泰子，濃野ヒロ子，大野洋子，福田千恵子，清水美位子，秋吉和子，丘 恵子，青木篤子，笠岡清江，稲垣美智子，松田初枝，二宮トミ子，村西直美，衛藤泰子，内藤敏子，平畑早苗，上里幸子，宮城登代子，渡部幸子，平良セツ子，島袋和美，亀田久美子，米澤カヨ子，勇 恵子，坂東フサエ，広川一枝，能井美千代，森 朝子，片桐久江，内木カネ子，松本不二，原田芳香，技能補佐員：渡部ヒデ子，山崎真人

教 官 人 事

研究所附属病院検査室長の選考経過に関する報告

昭和53年6月，数年来の懸案であった当研究所附属病院検査室が，室長1（助教授），技官2の増員を伴って設置されることに決定した。

そこで，同年6月15日に全教官の集いを開催，検査室の性格について討議されるとともに，新任の室長，すなわち助教授の選考は臨床系で行なうことに決まった。臨床教官会議の結果，前川，大島，加藤(幹)と私の4委員が投票により選出され，当時病院長であった私が委員長として選考委員会が結成されたのである。

その後，病理学的検査の性格をより正確に把握する必要を感じ，病理学部門の竹田助教授に専門委員として選考委員会を補佐して戴くことにした。

選考委員会において，まず論じられたことは，本ポジションが助教授であり，しかも，基礎的にも臨床的にも，研究のための場が十分に保証されていないので，これを部門教授や薬剤部長等のような最終的ポジションとしては考え難い，すなわちどうしても暫定的なものとしておかざるをえないということである。

そこで，選考方針として，当研究所の各部門の教授よりの御推薦があり，将来の研究や診療の場を提供して戴ける保証をえられる方のうちから選考するというようにしたのである。さらに当病院の検査室に，(1)細菌，(2)病理，(3)血液，(4)肺機能および(5)免疫の5つの柱を設け，その整備，充足を企てることを基本方針とし，今回の主任は，そのうちの最低ひとつに堪能な方ということにした。

このような方針の下に募集した処，数名の応募者があり，第1次選考で3名に絞り，次いで2名までに絞りえた。しかし，タイムリミットが10月1日であった関係もあり，2名の方の何れにお願いするかについては，教授会で最終的な投票により決定することにしたのである。

昭和53年9月7日の教授会でその経過を報告，討議，投票を行なった結果，久世文幸君が選ばれ，同年10月1日発令ということになった。

この報告を書いている今日では，発令後すでに4ヶ月以上を経過していることになり，すでに久世君の御努力により，検査室の充実，整備も着々と進捗しつつある。御同慶の至りであるが，検査室に対して今後ともに研究所全員の御協力，御支援を願う次第である。（寺松 孝）

細胞化学 堀内正宏 助手

昭和45年9月京大医学部卒，直ちに小児科学教室に入り臨床研究に従事。47年ウイルス研究所癌ウイルス部に移り，大学院生として白血球分化の仕事始める。51年4月本研究所細胞化学部に移る。

堀内君の研究課題は，in vitro における白血球の分化，特に CFU-C が好中球とマクロファージにふり分けられ

る機構の解析である。最近その努力が大きく実って、細胞分化の方向決定が液性因子の支配下にあることを立証した世界最初の報告となった。今のところは上記2方向への分化のみがコントロールされているが、将来更に多分化能のある幹細胞に就ても研究を拡げてゆきたいと考えている。

堀内君は容姿端正、人に接して寛容、言辞挙止時に茫洋として捉え難き感あるも、その気概の旺なるまた時に人をして啞然たらしむるものあり。切に願ふ、自重自愛、世に甘えることなく自らに溺れることなく、刻苦勉勵、終に兄が雄渾の志を遂げられんことを。(市川康夫)

胸部外科 伊藤元彦助教授の昇任について

昭和53年4月、山本博昭助教授が共済組合長の長尾病院長補佐として赴任されたので、後任として伊藤君をお願いした。

同君は、昭和38年、京都大学医学部を卒業、昭和39年、研究科博士課程入学、同43年退学、京都桂病院に暫く勤務された後、昭和46年3月、当部門の助手となり、49年6月には講師として活躍されていた。

業績の主たるものは、肺癌に関するものであるが、最近では縦隔腫瘍、とくに胸腺腫についても興味を抱いている。(寺松 孝)

胸部外科 清水慶彦 講師

清水慶彦君は昭和40年京大医学部を卒業、昭和42年から昭和47年まで国療岐阜病院胸部外科に勤務され、その間、昭和46年には三重大学医学部胸部外科に於て、助手として心臓血管外科の研修をうけている。昭和48年4月に当部門の助手となり、昭和53年5月より講師として勤務してもらっている。

同君の専門領域は心臓血管外科であるが、特に人工臓器、バイオマテリアルに興味をもっている。(寺松孝)

胸部外科 玉田二郎 助手

玉田二郎君は、昭和48年京都大学医学部卒業、しばらく胸部研外科で研修ののち、関西電力病院に勤務され、53年1月国療宇多野病院外科に転勤、53年1月からは胸部研胸部外科部門の助手として勤務してもらっている。

同君の専門領域は、胸部疾患の内視鏡診断であるが、機械に関する知識にも秀れており、関電病院時代には、逆流防止弁つき持続吸引装置の考案という仕事を完成されている。(寺松 孝)

臨床肺生理 太田和夫 助手

太田君は昭和40年の本学医学部卒業生である。以降、医学部整形外科学教室に入局し、一貫して側彎症ととりくんでいる学徒である。御承知のように側彎症は大きな社会問題であるが、その成因は確立していない。太田君は小児期における肺の發育異常が側彎症の一因となるのではないかと考え、昭和48年以降、側彎症と肺機能との関係を研究しつづけてきた。(その成果の一部は本号に記載されている。)彼の仮説はわが国の内外で大きく評価されており、側彎症における最高の権威であるアメリカのSRSにも招かれている。

彼の仮説が定説となる日の一日も早くくることを願うものである。

学術集会記録

I 昭和52年度学術講演会 (昭和53年1月21日, 楽友会館)

1. 非定型抗酸菌の臨床細菌学

内科学 第1部門 久世文章, 内藤祐子, 坂東憲司

過去3年間の本研究所属病院入院患者の喀痰からの抗酸菌分離件数の調査によると全抗酸菌分離件数の中で非定型抗酸菌の占める割合は増加の傾向がうかがわれ、抗酸菌の臨床細菌学的同定、鑑別の必要性が高まっている。この機会に、(1)臨床細菌学の立場からの簡易同定法、(2)非定型抗酸菌の試験管内薬剤感受性、(3)非定型抗酸菌のマウスに対する病原性、(4)マウスを用いた実験的 *M. intracellulare* 感染症に対する抗結核薬の併用効果、以上4項目についての我々の現在迄の成績をまとめて報告する。

(1) 現在、抗酸菌属に含まれている菌種は広く認められているもの (Bergey's Manual 第8版記載) にかぎっても約30種におよぶが、非定型抗酸菌症を惹起する菌種は、本邦ではその症例頻度からみて、*M. intracellulare*、*M. scrofulaceum* と *M. Kansasii*、迅速発育菌の *M. fortuitum* と *M. chelonae* の5菌種が重要であると考えられる。臨床の立場からは、非定型抗酸菌を一括して結核菌と鑑別することに重点を置き、次いで非定型抗酸菌であれば、前記の5菌種に代表されるいわゆる病原菌と他の非病原菌とを鑑別することで同定の目的はほぼ達せられると考えられる。これには次の検査項目が適当であろう。1) 分離菌の抗酸性の確認、菌形態の観察ならびに菌の排列状態の観察 (例: 結核菌のコード形成)。2) 発育日数の観察 (例: 迅速発育菌では3日以内)。3) 集落の着色の観察。4) 光発色性試験 (例: *M. kansasii* と *M. marinum*)。5) 集落の性状 (S型とR型の区別)。以上の基本的な性状の他に、6) ナイアシンテスト、7) 硝酸塩還元反応、8) 半定量カタラーゼ反応、9) Tween 80 水解反応等を見ることが実際の簡易同定はほぼ可能と思われる。

(2) 非定型抗酸菌の抗結核薬に対する *in vitro* の感受性は、*M. kansasii* が RFP, TH および CS に感受性を示す他は全体的に極めて低いと考えられた。多剤併用によって多少の効果は期待出来ると思われるが、新しい薬剤の開発がぜひとも必要である。一般抗生物質ならびに化学療法剤に関して現在迄の検討では期待すべき薬剤を見出し得ていない。

(3) マウスの経尾静脈感染による諸種非定型抗酸菌の病原性の検討では、結核菌と比較しその弱毒性は明らかで、病変は軽度で個体差が大きい。ただ *M. fortuitum* の腎病変がかなり一定していたのが特徴的であった。Air-borne infection の試みでも病変は軽度であった。

(4) マウスの臓器内生菌数を指標とした *in vivo* における抗結核薬多剤併用効果は、KM-RFP-EB-CS-TH 5剤併用で或程度認められたが、体内の生菌数の根絶には程遠い成績であった。

上記の結果と発症要因の臨床的な検討から、本症は opportunistic infection の傾向を多分に持つと考えられ、当面の課題は、宿主の感染防禦能の解析と有効な新薬剤の開発であろう。

2. 遅延型アレルギーの transfer

内科学第2部門 大 山 口 渥

結核感作モルモットの脾細胞、鼠蹊リンパ節細胞、末梢血リンパ球を用いてツベルクリンアレルギー伝達活性、Macrophage Migration Inhibitory Factor (MIF) 産生能、Leucocyte Migration Inhibitory Factor (LIF) 産生能について実験を行ない、相互関係について比較研究した。

実験方法としては、「ツ」アレルギー伝達活性は、各種材料より採集した生細胞をモルモットの静脈経路より注射した後、経時的に PPD 10 μ g を用いて皮膚テストを行なう “systemic passive transfer” によって試験した。MIF 産生能は David の方法に準じた間接法を用いて測定した。LIF 産生能は S ϕ borg の方法に準じた間接法によって測定した。

実験動物は3群に分けた。即ち、結核死菌を Freund's imcomplete adjuvant に浮遊して足蹠に注射した後4週目の群 (V群), V群に更に結核死菌を静注した後1週目の群 (VC群) および無処置対照群 (N群) である。

実験成績は, V群においては, 鼠蹠リンパ節細胞および末梢血リンパ球については, 「ツ」アレルギー伝達活性とともに MIF 産生能, LIF 産生能を認めたが, 脾細胞については「ツ」アレルギー伝達活性および LIF 産生能を認めたにも拘らず, MIF 産生能は全く認められなかった。一方, VC 群については, 脾細胞に著明な MIF 産生能が認められ, また「ツ」アレルギー伝達活性も V群に比して著明であった。しかし, VC 群脾細胞 PPD 添加培養上清についての LIF テストでは, 遊走阻止作用は無く, むしろ著明な遊走促進作用が認められる。また, VC 群の末梢血リンパ球およびリンパ節細胞は, V群に比して微弱な伝達活性および MIF 産生能を有していた。更に LIF テストの結果, 脾細胞の場合と同様著明な遊走促進が見られた。

以上の実験成績より, 結核死菌感作モルモットにおいては「ツ」アレルギー伝達活性細胞の生体内分布は必ずしも MIF 産生細胞の分布と同一ではなく, また MIF 産生細胞の分布は LIF 産生細胞の分布と同一でないことが明かにされた。即ち, 「ツ」アレルギー伝達細胞と, MIF 産生細胞および LIF 産生細胞は一致していないことが示唆される成績であった。一方, 感作およびチャレンジ (静注) を行なったモルモットの脾細胞については, 著明な「ツ」アレルギー伝達活性および MIF 産生能を認めた成績から, チャレンジによって「ツ」アレルギー伝達細胞と MIF 産生細胞が脾臓に多数集積されたものと推測された。LIF テストの成績については, VC 群の脾細胞, リンパ節細胞, 末梢血リンパ球の何れも, 抗原 (PPD) と共に培養することにより, LIF とは別個に, 白血球遊走促進因子を産生したことが推定され, その本体について今後検討が必要と思われる。

3. 肺挫傷の研究

臨床肺生理学部門 浅井 信明

交通災害が多発する現在では, 胸部外傷のほとんどが, 鈍性胸部外傷であり, その複雑な病態生理の為に, 治療に苦しめられることが多い。肺挫傷は, 外傷後早期より急性呼吸不全, RDS を示めず大きな原因と考え, その病態生理を検討した。

Willisam, Westermarck らは, 鈍性胸部外傷の70%以上に肺挫傷を認めると報告しているが, 肺挫傷を診断することは必ずしも容易ではない。

私どもが, S48.4よりS52.4迄に経験した鈍性胸部外傷は43例であった。これらの症例は, いずれも, 初診時, 呼吸不全を呈した。その損傷部位は多様で, いずれの原因によっても, 呼吸不全を生じる可能性がある。このうち, 肺挫傷を合併している症例13例 (30%), 肺挫傷の合併が否定された症例は, 21例 (49%) であった。なお, 9例の判断不明の症例があった。肺挫傷例では, おおむね, 多発肋骨骨折および肺裂傷が比較的多く認められる。その他の損傷部位には, とくに有意の差はないが, 胸部以外の外傷も, 肺挫傷の診断を複雑困難化している。

初診時の clinical data は, 肺挫傷, 非肺挫傷例ともに, 有意の差はなく, 血気胸による肺虚脱, 胸腔内圧迫, 肋骨骨折と疼痛による呼吸抑制と喀痰排泄困難, 気道閉塞, さらにそれに出血性ショック, 他臓器損傷が加わって, 修飾される。胸部X線でも, 合併損傷に修飾されて不明なことが多い。また, 肺挫傷に特徴的な境界不鮮明な陰影を生じるには, かなりの経過時間を要する。これにたいして, 気道確保, 酸素療法, 器械呼吸, 胸腔内ドレナージ, 輸血, 輸液, 開胸術などの緊急処置を行うが, さらに, 重篤な呼吸不全である RDS を示めず症例は少なくない。これらの原因が, 必ずしも, 出血性ショック, 外傷性肺ショック, 肺栓塞, 急性心不全らによるものとは考えられない。私達は, このように早期より RDS を示めずものとして, 肺挫傷を重視し, 実験的に検討した。

麻酔したモルモットに気管切開挿管下, Harvard Volume Respirator を用い, FIO_2 を0.3にて, 換気を一定にした後, 胸骨横断, 両側開胸を行い, 一側肺に, 肺裂傷を起こさない程度に, 圧傷を加えて, 5時間までの血液ガス, 肺コンプライアンスの変化を調べた。この間, 体血圧, 体温, ヘモグロビンが, 正常範囲に保つように管理した。

外傷後の PaO_2 の時間的変動をみると肺挫傷直後より, 体血圧の変化なしに, PaO_2 が急激に低下し, 5時間

後には、50 torr 以下にもなった。非肺挫傷群であるコントロールでは、このような変化はみられなかった。肺コンプライアンスの時間的変動を挫傷前に対する低下率でみると、3時間後には、前に述べて、コンプライアンスは1/2に低下した。一方コントロール群では、ほとんど変化はなかった。

このように、実験的に肺挫傷を作成しても受傷後早期より急激な肺内シャントの増加と、肺コンプライアンスの低下を認めた。

実験肺挫傷5時間までの早期組織学的観察では、肺胞内出血以外の所見として、血管周囲の浮腫、リンパ管腔の拡大を認めるが、高度の間質性浮腫、肺水腫の所見はない。非挫傷肺ではこのような所見は全くみられない。

挫傷2時間後の電顕レベルの所見は、肺胞内および間質に血球、血漿の漏出がみられ、上皮細胞の膨化と変形が認められる。血球、血漿の漏出のない部分でも同様の所見がみられる。これらの組織所見がRDSに直接関与している証拠はないが、実験結果では、肺挫傷は、早期よりRDSを示めず可能性が強い。このことから臨床的には、緊急処置後、なお、重症呼吸不全を呈し、ICUでの管理を必要とした症例に対して、bed sideで、種々の濃度のO₂療法、および各種の器械呼吸の効果をPaO₂を指標として、検討した。私達は、これらの強化治療にあたって、PaO₂が80 torr以上になることを目標とし、また吸入酸素濃度が40%をこえないことを原則とした。肺挫傷群は、O₂療法に抵抗し、また器械呼吸も、従圧型では、効果を示さなかったが、非肺挫傷群では、O₂療法、さらにIPPBによって満足な結果を得た。

肺挫傷は、肺コンプライアンスの低下とともに、簡単にtraumatic wet lungに進行しがちである。このような併発症を防ぐ為にも、早期より肺挫傷の合併を予想し対処せねばならない。

そのひとつに、私達は肺挫傷の合併を疑えば、外傷直後より、PEEPの使用を推める。外傷当日よりPEEPを使用した症例は、順調に、早期に、PEEPまたはRespiratorを離脱できたが、第1日目以後に遅れてPEEPを使用した症例は、それらの離脱に長時間を要した。

次に、体液希釈による肺挫傷の影響について、実験肺挫傷作成後1時間より、Ringer-lactate-solutionを3 ml/100g(体重)、3回輸液した。実験結果は、5 cmH₂OのPEEP下で呼吸管理を行ったにもかかわらず、PaO₂は急激に低下した。非肺挫傷群では、このようなPaO₂の低下はみられなかった。肺挫傷が、細胞透過性を高め、少しの体液バランスのくずれによって、急速に、Wet lungに進行し、PEEPによる効果が半減するものと考えられる。

ま と め

① 肺挫傷は、多発肋骨骨折、血気胸、肺気泡、肺裂傷に合併することが多く、早期診断が困難である。② 鈍性胸部外傷では、早期よりRDSを示す。大きな因子は肺挫傷である臨床結果を得た。③ 実験的にも肺挫傷を作成し早期よりRDSを呈することを認めた。④ この挫傷肺の私達の早期組織学的観察では、最初は単に肺胞内の出血にとどまり、次いで血管周囲の浮腫、リンパ管腔の拡大がみられるが、高度の間質性浮腫、肺水腫の所見はない。⑤ 電顕レベルでは外傷2時間後にすでに肺胞上皮細胞及び、血管内皮細胞の膨張と変形がみられる。⑥ 肺挫傷の早期診断意義は術後合併症であるTraumatic Wet Lungを防ぐことである。⑦ 私達はPEEPの早期使用、輸液および体液希釈の早期よりの配慮が予後に好結果を得ることを臨床および実験結果より述べた。

4. Bacteria の気菌糸と栄養菌糸

細菌血清学部門 木村 加寿子

5. ガスマスによる化学発癌剤の検出

病理学部門 高橋 権也

環境発癌物質として現在注目されているbenzo [a] pyreneと強力な合成発癌物質である3-methylcholanthreneとは、比較的安定な芳香族炭化水素であるが、生体内に投与された場合、共に細胞のmicrosome画分にあるcytochrome P₄₅₀によって酸化され、最終発癌物質に変化すると言われている。そこでこれらの化学物質による発癌機構を明らかにする為、中間代謝産物である水酸化体を生体より分離同定する方法が、現在まで種々試み

られてきた。最近この方面ではなばなしい成果をあげてきた方法として、高速液体クロマトグラフを用いた分析がある。しかしこの方法は (a) 分析時間が長い、(b) 標準物質が必要である、(c) 分析前に精製の必要がある、(d) 溶出時間が一定ではない、等と弱点が多い。今回我々は分析化学の方面で最近著しく精度の増したガスクロマト質量分析計を用いて、癌原炭化水素の誘対体の分離と同定を試みた。ガスクロマト質量分析言の利点として、(a) 試料の精製が比較的容易である、(b) 分析時間が短い、(c) 微量の分析が可能である、(d) ガスクロマトで分離が不十分な場合でも、質量数が異なれば、マスフラグメントグラフィーの手法により分離可能である、(e) 試料の分子構造に関する情報が得られる、等があげられる。

カラムは OV-1 及び Dexsil-300 を用い、溶出温度は25°から290°までの間で定温で行なう。水酸化体は trimethylsilyl 化してガスクロに注入した。機種は日本電子の D-300 型の質量分析計と 20-K ガスクロマトグラフを結合させ、データ処理は JAM-2000 のコンピューターで行なった。

結論だけを次に述べる。3-methylcholanthrene 及びその12種の誘導体は、ガスクロのみでは一度に分離同定する事は不可能であるが、試料の分子量には8種あり、マスフラグメントグラフィーの手法によって、それぞれを完全に分離同定する事が出来た。benzo [a] pyrene の場合には、検討された誘導体は38種ある。そのうちモノ水酸化体だけで12種類あり、これらは全て同じ質量数なので、ガスクロのみで分離しなければならない。12種のモノ水酸化体を一度に分析すると、5つのピークが現われ、分離は不十分であったが、これらのうち、すでに生体より代謝産物として同定されている5種の水酸化体を分析すると、一種類が融合したがその他の分離は充分であった。trans 型の dihydrodiol 体4種及び tetrahydrohydroxy 体4種の分離は完全であった。なお現在、最終発癌物質といわれている trans 7,8-dihydroxy 9,10-epoxybenzo [a] pyrene は不安定で検出は出来ないが、その分解産物である 7,8,9-trihydroxy 7,8-dihydrobenzo [a] pyrene 及び tetrahydrohydroxybenzo [a] pyrene を検出する事によって、間接的にその存在を推定することが可能であると判明した。

〔参考文献〕

Takahashi, G.: Separation and identification of 3-methylcholanthrene-related compounds by gas chromatography-mass spectrometry. Gann 69: 437, 1978.
 Takahashi, G. et al.: Identification of benzo (a) pyrene metabolites by gas chromatograph-mass spectrometer. accepted by Cancer Res. 39, 1979.

6. ペルオキシダーゼの細胞化学

細胞化学部門 大川 欣一

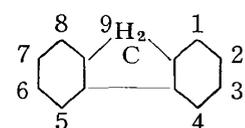
細胞化学的諸反応の中で、臨床血液学分野で長い間応用されて来たベンチデンによるペルオキシダーゼ反応は最もポピュラーなものの一つである。しかしながら最近に至ってベンチデンが製造販売ともに法律上禁止されるようになり、新しい酸化基質が求められた。

演者はフルオレン化合物の中のジアミン誘導体である 2,5-fluorenediamine (2,5-FDA) 及び 2,7-fluorenediamine (2,7-FDA) の二つがペルオキシダーゼの酸化基質となり得る上、更に、細胞化学的に使用しうるための優れた性質を有することを発見し、その方法の確立に努力し、その反応の諸性質を明らかにしたので報告する。

フルオレンは下記の化学構造を有し、各々2及び5、2及び7の位置がアミノ基で置換されたものが2,5-FD 及び 2,7-FDA である。以下順次これら二つの酸化基質について述べる。

A) 2,5-FDA の反応……2,5-FDA は pH 8.5 以上のアルカリ領域では反応の感受性が低下し、同時に反応産物の安定性が低下するので、pH 7.2 位の中性領域で用いるかあるいは弱酸性領域で用いる。反応産物是不溶性で紫褐色調を呈し、オスミウム親和性を有するために電子顕微鏡下に観察することも可能である。この褐色調の反応産物を『フルオレン褐色』『fluorene brown』と呼ぶ。

B) 2,7-FDA の反応……2,7-FDA は pH 8.5 以下（とくに中性～酸性領域）では水溶性緑青色反応産物（『フルオレン青色』『fluorene blue』と呼ぶ）が生じる。フルオレン青色は拡散性であり、この領域では細胞化学的应用は出来ない。pH 9.0～9.6 の領域ではフルオレン青色が出来ず、黄褐色調の『フルオレン褐色』が生じ、この



領域では細胞化学的应用が出来る, この場合にもオスミウム親和性であり, 電子顕微鏡下での観察が可能である。2,5-FDA 及び 2,7-FDA とともにフルオレン褐色は等質性で電子密度も高いので電子顕微鏡下の観察は容易である。

今回は試料として骨髓性白血球を用いたが, これらの実験の結果, フルオレンジアミンがペルオキシダーゼの細胞化学的酸化基質として優れていることが明らかになり (2,3-diamine-9-fluorenone) については第67回日本病理学会総会において共同研究者により報告の予定), 更に, 骨髓性白血球顆粒のペルオキシダーゼは広範な至適 pH を有し, 各酸化基質の反応液の至適 pH はその酸化基質の化学構造によって決定されることが明らかにされた。

フルオレンのジアミン誘導体はビフェニールのジアミン誘導体であるベンチデンより優れた酸化基質であり, 現在すでに演者の方法が広く臨床血液学分野においても応用されるようになっており, カタラーゼの細胞化学などにも及んで期待されるところが大きい。

7. 肺癌の組織学的細分類と臨床

胸部外科学部門 伊藤元彦

肺癌は周知の如く, きわめて多彩な細胞像や組織像を示し, その組織型によって異なった臨床経過を示すものである。

したがって, 肺癌の組織型分類には, 予後の推定, 治療法の決定, 化学療法を選択などの臨床面に, 何らかの示唆を与えうる, しかも簡潔な分類法が望まれる。

そのような意味で, 臨床からのニーズに応じようとする分類が最近報告されており, 1972年の WP-L 分類や, それとほとんど似た分類となった1977年の日本肺癌学会分類は, そのような要求にこたえようとするもので, 細分類を行なうことにより, 低分化腺癌, 低分化扁平上皮癌, 大細胞癌, 小細胞癌の中間型などの区別を明確にしようとするものである。

まず, 組織学的細分類のもっとも問題となるのは, 小細胞癌の oat cell type と intermediate type の区別である。われわれの症例で, 細分類の可能であった, 切除例26例, 非切除例30例で検討してみると, oat cell type のものは進行が早いために, 切除例も少なく予後もわるい。一方, intermediate type のもので, とくに末梢の polygonal cell type のもの予後はそれほど悪くない。放射線や化学療法に対する感受性は oat cell type の方が良好であるが, 予後はわるい。3年以上生存は, 切除例では oat cell type 1例, intermediate type 1例の合計2例, 非切除例では intermediate type 3例のみであった。

レントゲンのにも, oat cell type は浸潤傾向がつかよく, intermediate type では浸潤傾向が著明ではないなどの差がみとめられる。

腺癌に関しても, 腺癌の切除例79例で検討してみると, 手術成績や制癌剤に対する感受性が亜型により若干異なっていた。すなわち, papillary type のものは tubular type のものよりも手術成績がやや良好であり, 手術合併療法としての化学療法の効果は, tubular type のものの方が, papillary type のものよりも良好であった。

一方, 大細胞癌については, 細胞診における細胞型分類においても問題となるように, waste-basket 的になりやすい現状がある。しかし, このなかでは giant cell carcinoma のみが特殊型として残り, その他の亜型は腺癌あるいは扁平上皮癌として分類されるようになるであろう。

このように, Histological subtyping と臨床との関係の検討は, 発生母地との関連性からも, 治療上の共通点を求める上からも, 尚検討の余地があり, 各組織型の発生母地のすべてが解明されているわけではない現状では, 完全に統一的な分類を作成することは困難であろうが, 臨床からの情報を病理にもどして分類を考えなおすという操作は, 尚くり返して行なう必要がある。

特別講演

a. 抗体産生と遅延型過敏症

細菌血清学部門 桂 義 元

演題から想像される様な免疫学のほとんどの分野を包含する総説を行なったのではなく、私がこの研究所へ来て、これまでに行なってきた仕事について話した。しかも学問的意義というより、いくつかの新しい知見を得た実験あるいはそのきっかけとなった思いつきなどを主体に話した。

大まかに次の3つに分けて話した。① ウシ血清アルブミン (BSA) を用いたトレランスの研究。② BSA を用いた遅延型過敏症 (DTH) の研究。③ ヒツジ赤血球 (SRBC) および BSA を用いた抗原反応性ウィルス感受性 T 細胞の研究。いずれも CBA 系マウスを用いて行なった仕事である。①は、少量の BSA を静注することによって抗原特異的にトレランスを誘導することができるが、この場合脾臓内の細胞は T, B 細胞共に非反応性になっているが、胸腺内の細胞は正常に近い反応性を示すこと。一方多量の BSA を静注すると胸腺細胞、脾細胞共に非反応性になることを明らかにした。②では、マウスにおいては異種血清蛋白抗原に対する DTH はほとんど検出されないかあるいは誘導することが不可能であると考えられていたのであるが、不溶化した抗原をテスト抗原として用いることによって DTH を容易に検出することができることを示した。当時はヘルパー T 細胞と DTH のエフェクター T 細胞が同じものであるかあるいは別のものであるか明らかでなかったのであるが、いくらかの実験を重ねて、これらが別々の細胞であるという結論を得た。③は、②の DTH に関する仕事の一部のつもりで始めたものである。ある抗原に反応性を持った T 細胞を単一細胞レベルで検出することは、現在でも特殊な場合をのぞいて可能ではない。BSA に対する DTH の仕事を始めた頃、B. R. Bloom らが、モルモットのツベルクリンに対する DTH のエフェクター細胞を vesicular stomatitis virus による virus plaque として検出することができるという報告を行なった。そこでこの方法をどのような抗原でも使えるように広げて行けば私達の BSA に対するマウスの DTH ももっと詳しい解析ができると考え、最も使いやすい抗原である SRBC を用いて実験を始めた。ところが、抗原特異性のウィルス感受性 T 細胞 (V-PFC) の出現は、DTH の出現とは常に逆の関係になって、V-PFC を DTH のエフェクター細胞とは考えることができないことが明らかとなった。一方 VSV 感染を行なったマウスでは DTH が異常に強く誘導されることが明らかとなった。結局、V-PFC によって DTH の抑制性 T 細胞、あるいは抑制に関与する一連の T 細胞サブセットの少なくとも一つが検出されると考えることができる。その後抗体産生の抑制にも V-PFC が関与していることが明らかとなった。また抗がん免疫においても V-PFC が抑制的に働いている可能性が明らかになりつつある。

b. 当部門における医用高分子材料に関する研究

—埋植用医用材を中心に—

胸部外科学部門 寺 松 孝

埋植用人工医用材の具備すべき条件が、その使用目的に応じて異なるのは当然である。しかし、その基本的条件として、第一に挙げるべきは、それが少なくとも化学的に生体組織と有害な反応をしないことである。そして使用目的によっては、この条件のみで何拾年も体内に埋植しうる場合である。長石忠三、辻 周介、美濃口玄の3現京大名誉教授によって創められたメチルメタクリレート球を以てする胸膜外充填術では、約30年の今日なお、ほとんど支障なく充填球を埋植したままの症例も少数例ながらえられている。

しかし、既に明らかとなっているように、本術式は、空洞穿孔という致命的な合併症を招来し易く、そのために、充填材を弾力性軟の多孔性のウレタンフォーム等にし、充填部位を骨膜外と改良されている。その結果は、20年後も、大部分の例で、充填材は何等の悪影響も生体に与えていないことが明かとなった。

ゲル状のシリコンも化学的には生体とほとんど反応しないものであるが、これを乳房形成術に用いると、何年か後には、真円形に被包化される。

この種の変形は、被包化によるもので、埋植材は生体により異物として認識され、被包化され隔離状態におか

れる。これを避けるためには、生体と無反応なものでなく、生体組織と親和性の高い材料を開発する必要がある。

教室では、京大名誉教授岡村誠三博士等の御指導、御協力により、コラーゲン人工高分子複合体が高度の真の組織親和性を有することを見出しえた。

本材料を生体内に埋植すると、表層の脱抗原されているウシコラーゲンが生体のコラーゲンと結合し、コラーゲン線維を形成し、人工高分子—コラーゲン線維—生体組織という結合がみられ、真の組織親和性、あるいは同化という形がえられる。

教室では、このような材料を用い、2つの応用領域を開拓しつつある。

その1つは、安倍により始められ、清水、宮本らによりほぼ完成した、メッシュ状のポリプロピレンコラーゲン複合体による人工気管、および山本、清水、松本らにより試みられている人工胸壁、人工横隔膜、人工心膜等で、何れも臨床応用可能なものといえる。

一方、京大医学部の村地教授の下で、教室の渡部により行われている、コラーゲン人工高分子複合体への酵素や抗生物質の固定化であり、これにより機能性人工高分子材、そして、人工臓器への新しい道が開かれつつある。

このように、本来は生体と無反応な材料の表面を改変することにより、組織親和性の増大や各種の生理機能の附与等が可能であるが、さらに最近では、生産開発研究所の日野博士の作られたポリアルシカ等、埋植材として極めて興味ある複合体が登場している。本複合体はシリカの混合比により、ある場合には組織親和性を、ある場合には抗凝血性を示す。

このように、各種の人工材料を用いての医用材料の開発は、今後、楽しみ多い領域といえる。

II 胸部研談話会

第7回、53. 5.18 西山秀樹（内I）：白血球の貪食細菌能と抗菌化学療法に関連について、

第8回、53.11.16 竹田俊男（病理）：私たちの結合組織研究の歩み

III 特別ゼミナール（53年度）

76回	53年6月10日	結合組織研究における生化学的手法	東京医歯大難治疾患研	永井 裕
77回	53年10月3日	トキソホルモン研究の最近の進歩	阪大微研	松尾 治夫
78回	53年11月25日	ペプチドホルモン研究の現況	東大医学部	兼子 俊男
79回	53年12月16日	脳下垂体腫瘍の特異性と腫瘍発生におけるホルモンの役割	広島大学原医研	伊藤 明弘
80回	54年2月3日	病態動物における胆汁酸代謝	塩野義中央研究所	内田 清久
81回	54年3月10日	中枢神経系の性分化—ステロイドホルモンの役割	兵庫医大病理	山田 盛夫

業 績 目 録

内 科 学 第 1 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 結核、非定抗型酸菌症

中西通泰，前川暢夫，川合 満，久世文幸，小田芳郎，江部康二，西山秀樹，望月吉郎，細川昌則，坂東憲

司, 戸川真一: 類似した臨床経過をとった家族4人の肺結核, その遺伝的要因について 第53回, 日本結核病学会総会 (昭53.4)

内藤祐子, 久世文幸, 前川暢夫: 臨床細菌学的見地からみた抗酸菌の鑑別, 同定の試案, 同, (昭53.4)

久世文幸, 内藤祐子, 前川暢夫: *Mycobacterium intracellulare* 感染マウスに対する抗結核薬の併用効果, 同 (昭53.4)

前川暢夫他 (協同研究), 日本結核研究協議会: 有空洞肺結核の治療期間短縮に関する研究 (第3報), 同 (昭53.4)

前川暢夫他, (協同研究), 日本結核療法研究協議会: 入院時薬剤耐性に関する研究, 同, (昭53.4)

中西通泰, 特別講演, 現在の結核について, 第14回京都病院学会, (昭53.6)

前川暢夫, 久世文幸, 内藤祐子: *Mycobacterium intracellulare* に対する Aminoglycoside 系抗生物質の試験管内阻止力, 日本結核化学療法研究会総会, (昭53.6)

内藤祐子, 久世文幸, 前川暢夫: *Mycobacterium intracellulare* に対する Aminoglycoside 系抗生物質の試験管内阻止力: 第26回日本化学療法学会総会 (昭53.6)

前川暢夫, 山鳥英世, 池田宣昭, 馬淵尚克, 井上 昇, 稲掛英男: 結核菌に対するアミノ配糖体及びポリペプチドの相互交叉耐性について, 第44回日本結核病学会近畿地方会 (昭53.11)

前川暢夫, 川合 満, 池田宣昭, 馬淵尚克, 井上昇: 結核化学療法の強化に関する実験的研究, 第1報, 同, (昭53.11)

前川暢夫, 池田宣昭: アミノ配糖体及びポリペプチドの相互交叉耐性について, 日本結核化学療法研究会総会 (昭53.12)

2. 腫 瘍

網谷良一, 種田和清, 倉沢卓也, 岩田猛邦, 松原恒雄, 小橋陽一郎他: 原発性肺癌に合併した *Pneumocystis carinii* pneumonia の2例, 第94回日本内科学会近畿地方会 (昭52.12)

倉沢卓也, 北野司久, 青木稔 他: CEA 産生肺癌2例の検討, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

網谷良一, 種田和清, 倉沢卓也, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄 他: 典型的な Meningeal carcinomatosis の像を呈した肺癌の1例, 同, (昭53.2)

石原享介, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井準 他: 70才以上の肺癌の外科療法, 同 (昭53.2)

倉沢卓也, 北野司久, 西川光重, 板橋武彦, 弘野慶次郎 他: 縦隔腫瘍を思わせた絨毛癌の1例, 同 (昭53.2)

石原享介, 高塚勝哉, 久代英範, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準: 肺癌患者におけるCEA—手術例, false negative 例, 死亡例の検討, 同, (昭53.2)

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 江部康二, 西山秀樹, 坂東憲司, 細川昌則, 戸川真一: 左主気管支に原発した Liposarkoma の1例, 同, (昭53.2)

石原享介, 玉木長良, 児玉一司, 波多 信, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準, 岡部 学, 宮本 武 他: 縦隔小細胞性未分化癌と考えられる2症例, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

坂東憲司, 戸川真一, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 肺病変を含む, 多彩な病像を呈したホジキン病の1症例, 同, (昭53.7)

網谷良一, 望月吉郎, 種田和清, 倉沢卓也, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 松原恒雄 他: 早期胃癌に発症した(肺)癌性リンパ管症の1例, 同, (昭53.7)

岩田猛邦, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄, 倉沢卓也, 小田芳郎, 前川暢夫 他: 胸壁浸潤型肺癌26例の検討, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

細川昌則, 戸川真一, 坂東憲司, 望月吉郎, 西山秀樹, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 肺疾患患者における PHA 皮内反応試験の反応動向に関して (第1報), 同, (昭53.8)

種田和清, 網谷良一, 岩田猛邦, 笹沼竹雄, 松原恒雄, 倉沢卓也, 前川暢夫 他: *Pneumocystis carinii* 肺炎を併発した肺癌4例の検討, 同, (昭53.8)

3. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 西山秀樹, 坂東憲司, 細川昌則, 望月吉郎, 戸川真一: 呼吸器感染症に対する Cefamandole の使用経験・第26回日本化学療法学会総会, (昭53.6)

4. 気管支喘息

Mitsuru Kawai, Nobuo Maekawa, Michiyasu Nakanishi, Fumiyuki Kuze, Yoshiro Oda, Koji Ebe, Hideki Nishiyama, Kenshi Bando, Yoshiro Mochizuki, Masanori Hosokawa, Shinichi Togawa: Treatment of bronchial asthma patients with adrenocortical suppression, XIII World Congress on Diseases of the Chest, (7, 1978)

前川暢夫, 川合 満, 松原恒雄, 倉沢卓也, 角田沖介, 山田栄一, 伊藤和彦 他, (協同研究), Tiaramide の抗喘息作用, 第28回日本アレルギー学会総会, (昭53.10)

前川暢夫, 川合 満, 信田信夫他, (協同研究) Procatecol の気管支喘息に対する二重盲検試験成績, 同, (昭53.10)

川合 満, 戸川真一, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫: 慢性通年型気管支喘息に対する Beclomethasone Dipropionate Inhaler (BDI) の使用成績, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会 (昭53.11)

5. その他

久世文幸: 非定型抗酸菌症の臨床細菌学, 昭和52年度京大結核胸部疾患研究所講演会 (昭53.1)

石原享介, 新垣光弥, 中井 準 他: Panarteritis nodosa の3症例のX線像について, 第170回医学放射線学会関西地方会, (昭53.1).

倉沢卓也, 小橋陽一郎, 市島国雄, 山辺博彦: 肝以外の種々の臓器にperiosis様の病変を認めたperiosis hepatis の1剖検例, 第67回日本病理学会総会, (昭53.4).

細川昌則, 井上邦雄, 竹田俊男: 結合織に関する実験的研究(7), 同, (昭53.4).

高塚勝哉, 久代英範, 内平文章, 石原享介, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準: 奇静脈の著明な拡張より下大静脈閉塞症—Budd-Chiari 症候群を診断した1症例: 第95回日本内科学会近畿地方会, (昭53.6).

細川昌則, 井上邦雄, 竹田俊男: 3 T 6 変異細胞株のコラーゲン線維形成について. 第10回日本結合織学会, (昭53.7)

倉沢卓也, 前川暢夫, 松原恒雄, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 種田和清, 網谷良一, 望月吉郎 他: 経皮肺生検例の検討, 第29回日本肺癌学会関西支部会 (昭53.7).

山田栄一, 内平文章, 石原享介, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 宮本覚 他: 自然気胸の臨床的検討, 第6回日本救急医学会総会, (昭53.9).

望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄: 気管支動脈よりの喀血の2症例, 第96回日本内科学会近畿地方会, (昭53.9)

倉沢卓也, 前川暢夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 笹沼竹雄, 松原恒雄: “Bannet MA-1” の使用経験, Cold 急性増悪例3例の検討, 同, (昭53.9).

山下孝吉, 笹田昌孝, 内田三千彦, 田嶋政郎, 沢田博義, 中村 徹, 内野治人, 西山秀樹 他: 白血病患者好中球の貧食殺菌早期過程の解析, 第20回日本臨床血液学会総会, (昭53.11).

倉沢卓也, 前川暢夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 笹沼竹雄, 松原恒雄: 喀血を主訴とした体動脈肺動脈吻合の1例, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11).

石原享介, 児玉一司, 波多 信, 黒田 昭, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準: 慢性びまん性汎細気管支炎の生検例, 同, (昭53.11).

梅田文一, 高塚勝哉, 波多 信, 黒田 昭, 石原享介, 岩崎博信, 山田栄一, 中井 準 他: 外傷性縦隔血腫の1例, 同, (昭53.11).

岩田猛邦, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 笹沼竹雄, 松原恒雄 他: パラコート肺臓炎の1剖検例, 同, (昭53.11).

前川暢夫: 司会, 日本における胸部疾患学25年, その(1)呼吸器, 第49回 ACCP 日本支部定期講演会, (昭53.12).

〔誌 上 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

F. Kuze, Y. Oda, S. Kado, S. Takeda, M. Kawai, M. Nakanishi, N. Maekawa: A trial of the identification of various species of mycobacteria utilizing colony characteristics by plate culture technique; Bulletin of the International Union Against Tuberculosis 51: 271~274, 1976.

前川暢夫, 久世文幸: 非定型抗酸菌症の臨床, 感染症, (藤沢), 7:201~212. 1977.

久世文幸, 実験的非定型抗酸菌症に関する研究, 1. 非定型抗酸菌のマウスに対する病原性について(i), 結核, 53:39~48. 1978.

中西通泰, 難治肺結核, 分担執筆, 阿部裕 他編, 薬物療法の実際 (第2版), アサヒメジカル, 1978.

前川暢夫, 小田芳郎: 老年者の呼吸器疾患—結核—: Geriatric Medicine, 16: 455~458, 1978.

中西通泰, 結核の薬物療法, 薬局, 29:41~48, 1978.

2. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 坂東憲司, 西山秀樹, 山田栄一, 賀戸重允, 石橋達雄, 中井 準, 岩田猛邦他, (協同研究), 呼吸器感染症に対する T-1220 (Piperacillin) と Ampicillin の二重盲検法による薬効比較試験成績: Chemotherapy, 26: 123~166, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 江部康二, 西山秀樹, 坂東憲司, 長谷光雄, 望月吉郎, 細川昌則, 沢田憲三, 松原恒雄, 岩田猛邦, 倉沢卓也, 種田和満, 山田栄一, 賀戸重允, 石橋達雄, 大井 豊, 高田範男, 市川季男: 呼吸器感染症における PC-904 の臨床的検討, Chemotherapy: 26, S-2, 319~323, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 江部康二: PC-904 の血中濃度ならびに尿中排泄に関する研究, Chemotherapy: 26, S-2, 168~178, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 西山秀樹, 坂東憲司, 細川昌則, CS-1170 の呼吸器感染症に対する臨床的検討, Chemotherapy: 26, S-5, 288~291, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 山田栄一, 塩田憲三他: (協同研究), Apalcillin と Carbenicillin の慢性気道感染症に対する薬効比較試験成績, Chemotherapy, 26: 762~793, 1978.

3. 気管支喘息

前川暢夫: 大気汚染と気管支喘息, 内科: 42, 945~949, 1978.

川合 満, 前川暢夫, 光井庄太郎 他: (協同研究), Procatral 長期連用時の治療効果と安全性, 薬理と治療, 6:3626~3636, 1978.

4. そ の 他

内藤益一, 沢 武弘, 草野久也, 清水 巍, 宮地裕文: Aspergillus fumigatus 吸入による外因性アレルギー性肺胞炎の1例, 日胸, 35:938~942, 1976.

内藤益一, 井上敬四郎, 久野健志, 中川正清, 岩井和郎: 診断の過程において興味のあった石綿肺, 日胸, 37: 645~648, 1978.

岩崎博信, 波多 信, 石原享介, 黒田 昭, 梅田文一, 中井 準, 角田冲介, 種田 孝, 大脇 嶺, 藤田正憲: ピックウィック症候群の1症例, 京大胸部研紀要, 11:40~48, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 吉田敏郎, 山田栄一, 藤田真之助, 塩田憲三他: (協同研究), Clofedanol 錠による鎮咳効果についての二重盲検法による検討, Dextromethorphan との対比, Clin. Eval. 6: 563~587, 1978.

前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 山鳥英世, 吉田敏郎, 池田宣昭, 井上 昇, 稲樹英男: Eprazinone-2HCl (Resplen) の喀痰粘度低下作用に関する試験管内実験, 臨床と研究, 55: 250~206, 1978.

前川暢夫, 加藤幹夫, 中西通泰, 川合 満, 久世文幸, 小田芳郎, 江部康二, 西山秀樹: 臨床医学の展望, 呼吸器病学, 日医新, No. 2810, 53, 3, 4, 3~10.

前川暢夫: 肺と全身疾患, 医薬の門, 18:66~68, 1978.

中西通泰, 前川暢夫: 肺疾患, 胸膜疾患, (分担執筆) 富田仁 他編, 検査診断マニュアル, メヂカルフレンド, 1978.

前川暢夫: 微熱, 臨床と研究, 55:3768~3771, 1978.

研究会, その他

前川暢夫, 中西通泰: Cefamandole 研究会 (昭52.12)

川合 満: 気管支喘息の診断と治療, 左京区医師会臨床談話会, (昭53.2)

川合 満: 気管支喘息におけるステロイド療法, アルデシン研究会 (関西地区), (昭53.2)

中西通泰: 肺腫瘍の治療, 第12回呼吸器疾患研究会, (昭53.2)

川合 満: 気管支喘息の治療の実際, 静岡県気管支喘息研究会, (昭53.4)

前川暢夫, 中西通泰: 第1回 T-1551 研究会, (昭53.5)

川合 満: 気管支喘息とそのステロイド療法について, 住之江区医師会学術講演会, (昭53.5)

前川暢夫, 中西通泰: CS-1170 研究会, (昭53.5)

川合 満: 気管支喘息の病因と治療, 綴喜, 相楽郡医師会学術講演会, (昭53.7)

岩田猛邦他: 胸膜炎軽快後の経過観察中に多発性の結節を生じた胸腺腫例, 奈良呼吸器談話会, (昭53.7)

中西通泰: 気管支拡張症, 第13回呼吸器疾患研究会, (昭53.8)

川合 満: 気管支喘息の治療とベッドサイド, 第7回佐賀県治療研修会53, (昭53.9)

前川暢夫, 中西通泰: 第2回 T-1551研究会, (昭53.9)

川合 満: 内科的立場からの気管支喘息, 西京医師会学術講演会, (昭53.10)

前川暢夫, 中西通泰, KEM 研究会, (昭53.10)

前川暢夫, 中西通泰: Netilmicin 研究会, (昭53.11)

波多 信, 黒田 昭, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準 他: 同一部位に癌病巣と結核病巣とが混在した肺癌の1例, 第12回兵庫県肺癌談話会, (昭53.11)

細川昌則, 竹田俊男: 変異した3 T 6 線維芽胞株における線維形成, 第30回国立大学附置研究所結核及び胸部疾患談話会, (昭53.11)

中西通泰: 気管支拡張症の成因と副鼻腔炎との関連, いわゆるKartagener's syndrome について, 臨床と解剖セミナー (第4回) (昭53.12)

川合 満: 気管支喘息の診断とその治療, 福知山, 綾部医師会学術講演会, (昭53.12)

川合 満: 気管支喘息における最近の薬物療法について, 和歌山県医師会学術講演会, (昭53.8)

前川暢夫, 中西通泰: NK-631 研究会, (昭53.8)

前川暢夫, 中西通泰: CGP-9000 研究会, (昭53.9)

岩田猛邦 他: 全身性 Peliosis の病理学的検討, 奈良呼吸器談話会, (昭53.12)

松原恒雄: 喘息治療の実際 (特別講演) 奈良喘息研究会, (昭53.6)

内科学第2部門

1. 免疫学の基礎的領域に関する研究

〔学会・研究会報告〕

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英: ヒト・リンパ球における PPD による免疫グロブリン産生細胞の誘導, 第41回実験結核研究会総会, (昭53.10)

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英, 真弓光文: ヒト免疫グロブリン産生機構に関する研究 I, プロテイン A 結合ヒツジ赤血球による Ig 産生細胞の検出, 第28回日本アレルギー学会総会, (昭53.10)

平田健雄, 西川伸一, 泉孝英, 真弓光文: ヒトにおける免疫グロブリン産生機構に関する研究 (2) protein A により誘導性の細胞について, 第28回日本アレルギー学会総会 (昭53.10)

真弓光文, 西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英他: ヒト末梢血 T 細胞の *in vitro* における細胞性免疫能の検索 (I) TNBS-coupled autologous lymphocyte を stimulator とした MLR について, 第28回日本アレルギー学会総会, (昭53.10)

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英: ヒト免疫グロブリン産生機構に関する研究, III. PPD による免疫グロブリンの誘導とその機構の解析, 第8回日本免疫学会総会, (昭53.11.28)

平田健雄, 西川伸一, 真弓光文, 泉 孝英: ヒト末梢血の抗体産生, 第10回京大臨床免疫同好会, (昭53.9)

真弓光文, 三河春樹, 奥田六郎, 平田健雄, 西川伸一, 泉 孝英: TNBS-coupled autologous lymphocyte を stimulator としたヒト末梢血 MLR について, 第10回京大臨床免疫同好会, (昭53.9)

〔誌 上 発 表〕

西川伸一, 平田健雄, 泉 孝英: Protein A 結合ヒツジ赤血球を標的にしたヒト免疫グロブリン産生細胞のブランク法による検出, 免疫実験操作法 VII, 2163, 日本免疫学会, 昭53.9

2. 結核の免疫およびアレルギーに関する研究

〔学会・研究会発表〕

長井苑子, 泉 孝英: 結核患者血清の免疫抑制作用に関する研究, 第53回日本結核病学会総会, (昭53.4)

泉 孝英, 長井苑子: 肺抗核患者血清によるマウスの SRBC に対する plaque forming cell response 抑制作用, 昭和52年度日本医学協力計画結核専門部会, (昭53.2)

本田和徳, 大山口 渥, 松井祐佐公, 佐藤篤彦, 木野稔也, 大島駿作: ツベルクリンアレルギーの伝達機構—transfer 活性細胞, MIF 産生細胞, および LIF 産生細胞の相互関係について—, 第41回実験結核研究会総会, (昭53.10)

松井祐佐公, 大山口 渥, 木野稔也, 大島駿作: モルモットにおける LIF と MIF の比較について, 第40回実験結核研究会総会, (昭53.4)

松井祐佐公, 本田和徳, 木野稔也, 大島駿作: モルモット LIF と遅延型過敏症および産生細胞について, 第28回日本アレルギー学会総会, (昭53.10)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英, 長井苑子: 肺結核患者血清によるマウスの SRBC に対する plaque forming cell response 抑制作用, 昭和52年度日本医学協力計画報告書, p. 305, 日米医学協力研究会結核専門部会,

Oshima, S., Kino, T., Sato, A., Oyamaguchi, A., and Matsui, Y.: A role of thymus dependent lymphocyte in passive transfer of tuberculin hypersensitivity, *Jap. J. Tuberc.*, 21: 5, 1978.

3. 肺癌に関する研究

〔学会・研究会発表〕

北市正則, 泉 孝英, 浅本 仁, 古田睦広, 宮城征四郎, 安谷屋茂男, 森岡茂治, 筒井大八: 肺癌と所属リンパ節の研究 (第3報) 肺癌病巣およびその近傍における組織反応と地域差について, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

泉 孝英, 杉之下俊彦: 肺癌血清, とくに γ -グロブリン分画の免疫抑制作用に関する研究, 第75回日本内科学会講演会, (昭53.5)

泉 孝英, 杉之下俊彦, 長井苑子: 肺癌患者血清の免疫抑制作用を用いた肺癌の免疫学的診断法 (Immunosuppression test) の診断学的意義について, 第29回肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

泉 孝英, 杉之下俊彦, 長井苑子: Immunosuppression test による肺癌の血清学的診断 (第1報), 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

佐藤篤彦, 本田和徳, 門 政男, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作: 女性肺癌の増加について, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

北市正則, 泉 孝英, 浅本 仁, 古田睦広, 森岡茂治: 肺癌と所属リンパ節の研究 (第4報), 肺所属リンパ節の免疫形態学的分類と手術予後, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 肺癌患者における PHA 皮膚反応, 第28回肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

門 政男, 泉孝英: 癌患者の免疫機能測定法としての PHA 皮膚反応, SPG 研究会, (昭52.3)

小原幸信: 肺癌の組織型と臨床所見, 第28回肺癌学会関西支部特別講演, (昭53.2)

〔誌 上 発 表〕

本田和徳, 今井弘行, 門 政男, 佐藤篤彦, 木野稔也, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作, 筒井大八, 森岡茂治, 杉本幾久雄: 片側性肺疾患を既往にもつ肺癌症例の検討, 日本胸部臨床, 37:618, (昭53)

4. 気管支喘息および I 型アレルギーに関する研究

〔学 会 発 表〕

木野稔也, 今井弘行, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究. VI. 蛾および蝶による気管支喘息の診断と治療のための“かいこ”抽出液の役割について, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

木野稔也, 今井弘行, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究, 第75回日本内科学会総会, (昭53.5)

Toshiya Kino and Shunsaku, Oshima: Studies on bronchial asthma due to insects. The reaginic sensitivity to moth and butterfly in patients with bronchial asthma, XIII th world congress on diseases of the chest (53, 7)

木野稔也, 今井弘行, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究, VII かいこの蛾アレルギーと蝶, 蛾およびダニアレルギーの交叉反応性について, 第28回日本アレルギー学会総会, (昭53.10)

〔誌上発表・研究報告〕

Toshiya Kino and Shunsaku, Oshima: Allergy to insects in Japan. I. The reaginic sensitivity to moth and butterfly in patients with bronchial asthma, J. Allergy and Clin. Immunol., 61: 10, 1978.

木野稔也, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息の研究, 2. トビケラの吸入アレルギーとしての意義と Radioallergosorbent test による IgE 抗体の検出, アレルギー, 27:31, 1978.

木野稔也: 昆虫アレルギー, 今日の治療指針, P. 419, 1978, 医学書院,

木野稔也, 今井弘行, 大島駿作: Paper disc radioallergosorbent test (PRIST) による血清 IgE の測定—測定精度の検討と radioimmunosorbent test (RIST) による測定値との比較, 臨床免疫, 10: 511, 1978.

木野稔也, 大島駿作: 昆虫アレルギーによる気管支喘息の研究—蛾および蝶特異的 IgE の季節変動と減感作療法について, 昭和52年度環境庁公害医療研究費補助金による報告書.

5. サルコイドーシスに関する研究

〔学会・研究会発表〕

- 泉 孝英, 岩井和郎他: サルコイドーシス急性発症症例の検討, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)
- 泉 孝英, 杉之下俊彦, 長井苑子: サルコイドーシスの免疫学的研究 (第6報), 血清中の免疫抑制作用物質の性状と作用機序について, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)
- 西川伸一, 大山口 渥, 佐藤篤彦, 木野稔也, 泉 孝英: サルコイドーシスの臨床像の変貌に関する検討—自験22年間333症例の集計成績を中心として, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)
- 長井苑子, 泉 孝英: サルコイドーシス患者血清の免疫抑制作用機序について, 厚生省特定疾患調査研究班昭和52年度総会, (昭53.2)
- 泉 孝英: サルコイドーシスにおける免疫異常, 第6回熊本免疫アレルギー研究会, (昭53.12)
- Mikami, R., Izumi, T. et al.: Correlation of serum ACE levels to disease activities in sarcoidosis. 8th International conference on sarcoidosis and other granulomatous diseases. Cardiff. (53, 9)
- Izumi, T.: Plaque forming cell response suppressive factor in sarcoidosis serum. 8th International Conference on sarcoidosis and other granulomatous diseases. Cardiff. (53, 9)
- Nanao, Y. Izumi, T. et al.: Cardiac involvement in 963 cases of sarcoidosis by electrocardiographic and endomyocardial biopsy techniques. 8th International Conference on Sarcoidosis and other granulomatous disease (53, 9)

〔誌 上 発 表〕

- 泉 孝英: サルコイドーシス 2 患者血清の免疫抑制作用について, 昭和51年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績 p. 151 (52, 3)
- 北郷 修, 岩井和郎, 泉 孝英: クベイム抗原製造番号40の使用成績, 昭和51年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班業績 p. 174 (52, 3)
- 泉 孝英: 急性発症症例調査状況, 昭和51年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班業績 p. 177 (52, 3)
- 立花暉夫, 泉 孝英他: 5年以上肺病変が残存したサ症例の検討, 昭和51年度厚生省特定疾患サルコイドーシス調査研究班研究業績, p. 283 (52, 3)
- ① 西川伸一, 北市正則, 平田健雄, 泉 孝英: サルコイドーシス肺病変と慢性ベリリウム肺病変の病理相織学的鑑別点について p. 294 (52, 3)
- 泉 孝英: サルコイドーシス, 結核, 53(9):441, 1978.

6. 肺線維症に関する研究

〔研究会発表〕

- 泉 孝英, 平田健雄: 呼吸器疾患における HLA について, 昭和52年度厚生省特定疾患肺線維症調査研究班班会議, (昭53.2.25)

〔誌 上 発 表〕

- 泉 孝英, 平田健雄: 肺線維症例における circulating immune complex の証明とその意義に関する研究, 厚生省特定疾患肺線維症調査研究班, 昭和51年度研究報告書 p. 172 (52, 3)
- 滝島 任, 泉 孝英他: 肺線維症全国調査症例の呼吸機能, 生化学的, 免疫学的検査所見, 厚生省特定疾患肺線維症調査研究班, 昭和51年度研究報告書 p. 199 (52, 3)
- 滝島 任, 泉 孝 英: 原因不明のびまん性間質性肺炎の病因, 病態生理に関する現時点のまとめ, 厚生省特定疾患肺線維症調査研究班, 昭和51年度研究報告書, p. 203 (52. 3)

7. 産業性肺疾患に関する研究

〔学 会 発 表〕

西川伸一, 平田健雄, 北市正則, 泉 孝英: 慢性ベリリウム肺に関する研究 (第4報), ベリリウム取扱い工場労働者におけるツベルクリン反応の変動について, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

Nishikawa, S., Izumi, T.: A three year prospective study on Mantoux reaction of factory workers exposed to beryllium oxide. 8th International Conference on Sarcoidosis and other granulomatous disease. Cardiff. (53. 9)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英: 慢性ベリリウム肺, 石山, 日野原, 阿部編, 今日の治療指針 p. 202 1978. 医学書院

8. 呼吸器疾患の免疫学的研究

〔学 会 発 表〕

平田健雄, 西川伸一, 松井祐佐公, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作: びまん性間質性肺炎 (肺線維症) における寒冷凝集素価の上昇とその意義について, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

泉 孝英: シンポジウム I, 細胞性免疫をめぐって (司会徳永徹) 5. 細胞性免疫機能 (臨床の立場から), 第53回日本結核病学会総会, (昭53.4)

杉之下俊彦, 泉 孝英: ヒト血清中の免疫抑制作用物質に関する研究, 第4報, 血清中の免疫抑制作用物質の多様性, 第40回日本血液学会総会, (昭53.5)

泉 孝英, 長井苑子: ヒト患者血清によるマウスの遅延型反応の抑制, 第40回実験結核研究会, (昭53.4)

Ochi, T. Izumi, T. et al.: A new type of hypersensitivity pneumonitis in Japan. 8th International Conference on Sarcoidosis and other granulomatous Diseases Cardiff. (53. 9)

〔誌 上 発 表〕

泉 孝英, 長井苑子, 西川伸一: 呼吸器疾患最近の進歩<あすへの内科展望>本間日臣編, 6. 免疫学の進歩と肺疾患, p. 74 金原出版, (昭53)

② 泉 孝英, 西川伸一: 過敏性肺臓炎, 臨床科学 (14(3):303, 1978.

② 泉 孝英, 西川伸一: HLA と肺疾患, 春季増刊, 注目の疾患, 問題の領域 p. 792, 1978

今井弘行: 呼吸器疾患における血清 IgE に関する研究, 第1編, 血清 IgE 正常値に関する検討, 京都大学結核胸部疾患研究所紀要, 11:49, 1978.

今井弘行: 呼吸器疾患における血清 IgE に関する研究, 第2編, 各種呼吸器疾患における血清 IgE 値の検討, 京都大学結核胸部疾患研究所紀要, 11:66, 1978.

真弓哲二: 呼吸器疾患におけるリンパ球に関する免疫学的研究, 京都大学結核胸部疾患研究所紀要, 11: 91, 1978.

大島駿作, 真弓哲二, 門 政男: 呼吸器系の老化—免疫—, Geriatric Medicine, 16: 431, 1978.

9. 呼吸器の感染防禦機構について

〔学 会 発 表〕

門 政男, 大島駿作, 高橋権也: 呼吸器の感染防禦機構に関する研究—卵白リゾチーム投与後の肺および気管支洗浄液中の濃度について—, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

10. その他呼吸器疾患一般について

〔誌 上 発 表〕

木野稔也, 本田和徳, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 鈴木輝康, 石井 靖: 各種肺疾患の肺血管病変およびフィブリノーゲン値とウロキナーゼによる治療の試み, 新薬と治療, 15:639, 昭53.

Itoh, H., Tokunaga, S., Asamoto, H., Furuta, M., Funamoto, Y., Kitaichi, M. and Torizuka, K.: Radiologic-pathologic correlations of small lung nodules with special reference to peribronchiolar nodules, Am. J. Roentgenol., 130: 223, 1978.

11. 症例報告

〔学会発表〕

溝野 進, 泉 孝英他: 紅皮症を伴い急激な経過をたどったびまん性間質性肺炎の1剖検例, 第96回日本内科学会近畿地方会, (53.9)

門 政男, 西川伸一, 大島駿作, 杉本幾久雄: 結核性胸膜炎の治療中に発生したカンジダ肺炎の1症例, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11)

本田和徳, 今井弘行, 佐藤篤彦, 小原幸信, 大島駿作: Multiple occult bronchogenic carcinoma と考えられる1例, 第29回肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

本田和徳, 門 政男, 今井弘行, 大島駿作: 肺門部早期肺癌の1例, 第7回近畿気管支鏡懇話会, (昭53.1)

北市正則, 泉 孝英, 小原幸信, 大島駿作, 伊藤元彦: 気管支腺腫瘍 Mucoepidermoid Carcinoma の1手術例, 第28回肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

北市正則, 西川伸一, 小原幸信, 大島駿作: 上大静脈症候群で発症した膈体部癌の2剖検例, 第28回肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

〔誌上発表〕

古田睦広, 浅本 仁, 北市正則, 稲本俊, 世良敏行: 高カルシウム血症を示した食道癌の1剖検例, 臨床内分泌と代謝, 1:117, 1978.

12. 講演会など

大島駿作: 肺疾患の免疫学, 滋賀県国保審査委員会学術講演会, (昭53.8.18)

大島駿作: 呼吸器疾患の臨床, 滋賀県社会保険診療報酬請求書審査委員会学術講演会, (昭53.9.16)

大島駿作: 肺癌と肺結核の鑑別について, 最近の肺結核の治療について, 結核医療研修会, (昭53.11.25)

胸部外科学部門

〔誌上発表〕

1. 腫 瘍

伊藤元彦: 肺癌の臨床における問題点, 日本臨床 36: 3511, 1978.

松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: foot light, 左全胸腔を占める巨大腫瘍, 胸部外科 31: 81, 1978.

松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: foot light, 中下葉の無気肺を示した肺癌例, 胸部外科 31: 164, 1978.

松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: foot light, 腫瘍の肺内外発生の鑑別における C.T. の効用, 胸部外科 31: 241, 1978.

松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: foot light, 小細胞型未分化癌の C.T. 像, 胸部外科 31: 324, 1978.

伊藤元彦: 「肺癌手術と合併療法」, Adjuvant chemotherapy における薬剤の選択—感受性試験, 日本胸部外科学会雑誌 26: 336, 1978.

伊藤元彦, 高嶋義光, 光岡明夫, 青木 稔, 福田治男, 桐林憲司, 長瀬千秋: 肺の functioning tumor, 臨床医 4: 513, 1978.

福田治男, 伊藤元彦: アミラーゼ産生肺癌の研究, 癌の臨床 24: 262, 1978.

秋山文弥: 第31回中部肺癌学会印象記, 肺癌 18: 98, 1978.

- 服部正次, 伊藤元彦他14名: 小細胞癌の多角的集約治療成績 (第一報), 肺癌 18 : 419, 1978.
- 伊藤元彦, 松村理司: 肺癌のレントゲン像 (1) notch sign, 総合臨床 27 : 739, 1978.
- 松村理司, 伊藤元彦: 肺癌のレントゲン像 (2) pleural indentation, 総合臨床 27 : 970, 1978.
- 伊藤元彦, 松村理司: 肺癌のレントゲン像 (3) 空洞形成, 総合臨床 27 : 1163, 1978.
- 伊藤元彦, 松村理司: 肺癌のレントゲン像 (4) 浸潤型肺癌, 総合臨床 27 : 1363, 1978.
- 松村理司, 伊藤元彦: 肺癌のレントゲン像 (5) 肺癌の無気肺像, 総合臨床 27 : 1575, 1978.
- 伊藤元彦, 松村理司: 肺癌のレントゲン像 (6) 肺門腫瘤型, 総合臨床 27 : 1777, 1978.
- 松村理司, 伊藤元彦: 肺癌のレントゲン像 (7) 胸水貯留像, 総合臨床 27 : 1974, 1978.
- 伊藤元彦, 松村理司: 肺癌のレントゲン像 (8) 胸壁浸潤型および Pancoast 型肺癌, 総合臨床 27 : 2760, 1978.
- 松村理司, 伊藤元彦: 肺癌のレントゲン像 (9) リンパ節腫脹像, 総合臨床 27 : 2927, 1978.
- 松延政一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 寺松 孝, 田中 寛: 肺癌と C.T., 肺と心 25 : 166, 1978.
- 和田洋巳, 松延政一, 外村聖一, 寺松 孝: 癌と免疫療法一溶連菌製剤 OK-432 の検討 I. 遅延型過敏症の増強, 癌と化学療法 5 : 803, 1978.
- 和田洋巳, 松延政一, 外村聖一, 寺松 孝: 癌と免疫療法一溶連菌製剤 OK-432 の検討 II. 非特異的 (non-specific) Killer の誘導, 癌と化学療法 5 : 811, 1978.
- 倉田昌彦, 岡田英彦, 横山和敏, 近藤敬一郎, 西本 孝, 室本 仁, 田中 寛, 松延政一, 長瀬千秋, 伊藤元彦: 日本胸部疾患学会雑誌 16 : 589, 1978.
- 前里和夫, 玉田二郎, 人見滋樹, 鈴木庸之, 本出真三: 原発性肺線維肉腫の一治験例一本邦報告例の統計的観察, 日本胸部臨床 37 : 713, 1978.
- 北野司久, 高嶋義光, 杉山正敏, 青木 稔, 長瀬千秋: Nu- マウスを用いる制癌剤感受性検査法 (第1報) その基礎的研究, 最新医学 33 : 1455, 1978.
- 長瀬千秋, 青木 稔, 伊藤元彦, 寺松 孝, 高嶋義光, 北野司久: 培養人癌細胞を用いての制癌剤感受性検査法の開発の試みと, その将来における臨床応用の可能性について, 最新医学 33 : 2214, 1978.
- 谷川敬一郎, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 近藤敬一郎: 北野病院紀要 23 : 1, 1978.
- 和田洋巳, 松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: 日医ニュース, medical scope: 407, 1978.
- 辰巳明利, 大木一夫, 坂東義清, 茂幾俊武, 伊東政敏, 重康牧夫: 早期肺癌一自験例6例と早期診断一, 倉敷中央病院年報 47 : 25, 1978.

2. 胸 腺, 免 疫

A. Mitsuoka, T. Teramatsu, M. Baba, S. Morikawa and K. Yasuhira: Delayed hypersensitivity in mice induced by intravenous sensitization with sheep erythrocytes: evidence for tuberculin type hypersensitivity of the reaction. *Immunology* 34: 363, 1978.

和田洋巳, 松延政一, 寺松 孝: 正常および重症筋無力症胸腺における T, B 細胞の比率, 臨床免疫 10 : 499, 1978.

松谷之義: 重症筋無力症の外科療法, 共済医報 26 (4) 10, 1978.

3. 結 核

山本博昭, 松谷之義, 松本守海, 青木 稔, 渡辺 智, 寺松 孝: 結核性空洞に対する空洞形成術一手術成績と適応の限界について一結核 53 : 541, 1978.

4. 人工材料

Y. Shimizu, S. Matsunobe, H. Yamamoto, T. Teramatsu, T. Hino and S. Okamura: Study on Composites of collagen and synthetic polymer. *Artificial Organ* 1: 148, 1978.

松延政一, 清水慶彦, 和田洋巳, 山本博昭, 寺松 孝, 岡村誠三, 日野常稔: 細胞培養法による合成高分子材料の組織親和性の検定一特にコラーゲン合成高分子複合体の検定について, 人工臓器 7 : 68, 1978.

Y. Miyamoto, S. Matsunobe, H. Kato, Y. Shimizu, R. Abe, T. Teramatsu, S. Okamura and T. Hino: Tracheal reconstruction using collagen-plastics copolymers. 人工臓器 7: 165, 1978.

渡辺 智, 清水慶彦, 山本博昭, 寺松 孝, 他3名: コラーゲン被覆合成高分子担体への酵素固定化の試み, 人工臓器 7: 206, 1978.

寺松 孝, 清水慶彦, 岡村誠三, 日野常稔: 生体とポリマーの接触界面の諸問題, 医用高分子材料に関する基礎的研究, 研究概要報告書 3: 261, 1978.

5. 心・血管

泰水弘文, 表 信吾, 田中 暁, 秋山文弥, 加藤弘文: Pathogenesis and treatment of angina pectoris at rest as seen from its response to various groups. Jap. Circul. J. 42: 1, 1978.

宮本 覚, 岡部学, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: P. D. A. を伴う先天性疾患治療上の問題点, 日本心臓血管外科学会雑誌 8: 164, 1978.

島本光臣, 秋山文弥, 篠崎 拓, 加藤弘文, 田村康一, 上野陽一郎, 泰江弘文, 表 信吾, 滝沢明憲, 永尾正男: ペースメーカー植込み10年の成績—特に死亡例並びに心筋電極断線について, 心臓 10: 415, 1978.

山里有男, 松村理司, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 心膜嚢腫の5治験例, 胸部外科 31: 375, 1978.

千種弘章, 大井 勉, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之, 他5名: 心筋炎後に発生したと考えられる多発性心室瘤の1治験例, 心臓 10: 748, 1978.

宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之, 他6名: 冠動脈肺動脈異常起始症の外科治療—左冠動脈肺動脈異常起始症と左冠動脈前下行枝肺動脈異常起始症の2手術治験例, 胸部外科 31: 513, 1978.

柳原皓二, 吉栖正之, 庄村東洋, 山家 武, 中村隆澄, 西内 素, 宮本 覚, 他5名: 非穿通性外傷による僧帽弁腱索断裂の超音波所見, 呼吸と循環 26: 477, 1978.

吉栖正之, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 他3名: 完全型心内膜床欠損症に対する弁膜中隔形成術, 日本胸部外科学会雑誌 26: 1055, 1978.

馬場国蔵, 庄村東洋, 吉栖正之, 他2名: 小児期心疾患における圧 Biplane Cine-ACG 同時記録による左室, 右室圧容量関係について—(第一報) 左室・右室圧容量曲線—, 呼吸と循環 25: 1119, 1978.

6. 一般胸部疾患, 他

寺松 孝: 新しい胸部外科の臨床, (共同執筆) 縦隔疾患の X 線診断, 日本胸部外科学会卒後教育委員会, 1978.

K. Hijiya and Y. Okada: Scanning electron microscope study of the cast of the pulmonary capillary vessels in rats. J. Electron Microsc., 27: 49, 1978.

K. Hijiya: Electron microscope study of the alveolar brush cell. J. Electron Microsc. 27: 223, 1978.

K. Hijiya: Derivation and ultrastructure of alveolar brush cell. Proc. 9th Int. Congr. Electron Microsc. 492, 1978.

K. Hijiya: Ultrastructural study of lung injury induced by bleomycin sulfate in rats. J. Clin. Electron Microscopy 11: 41, 1978.

和田洋巳, 松延政一, 外村聖一, 寺松 孝, 他2名: DIC (disseminated intravascular coagulation) を伴ったクレブシエラ肺炎の1例, 日本胸部臨床 37: 403, 1978.

桑原正喜, 松原義人, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 自然気胸の治療—222症例(292回治療)の臨床的検討, 日本胸部臨床 37: 860, 1978.

人見滋樹, 玉田二郎, 前里和夫: 胸水の鑑別, 肺と心 25: 65, 1978.

寺松 孝, 桐林憲治: 血胸および血性胸水, 臨床と研究 55: 32, 1978.

寺松 孝: 矯正, 再建外科の将来性(論説) 日本胸部疾患学会雑誌 16: 233, 1978.

玉田二郎, 人見滋樹: 新しい器械, 新しい胸腔低圧持続吸引器, 胸部外科 31: 912, 1978.

林 義春, 人見滋樹, 玉田二郎共著, 長石忠校閲: 肺区域の気管支造影, 医学書院, 1978.

鈴木孝世, 高山博史, 前里和夫, 玉田二郎, 人見滋樹: 中葉症候群・副鼻腔気管支症候群の一典型例, 関西電力病院医学雑誌 10:39, 1978.

玉田二郎: 腸閉塞に続発した腹膜炎及び開腹術後の気胸をきたしエンドトキシンショックで死亡した一症例, 関西電力病院雑誌 10:29, 1978.

長瀬千秋: ステレオ聴診器の考案, 胸部外科 31:134, 1978.

伊東政敏, 勝田宏重, 中路忠司, 茂幾俊武, 坂東義清, 辰巳明利: Vicilin-S 点滴静注の使用経験, 診療と新薬 15:1073, 1978.

辰巳明利, 大本一夫, 坂東義清, 茂幾俊武, 伊東政敏: Morgagni 孔ヘルニアの1症例と本邦報告例の統計的考察, 倉敷中央病院年報 46, 79, 1978.

松谷之義, 青木 稔: ウロキナーゼの胸腔内投与, 診療と新薬 15(5):223, 1978.

寺松 孝: 胸部外科各論, 縦隔, 新臨床外科全書, 全原書店, 1978.

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

桑原正喜: 小細胞癌の気管支鏡所見, 第7回気管支鏡懇話会, (昭53.1)

北野司久: 肺癌における C.E.A., 第5回京滋肺癌研究会, (昭53.1)

松原義人: 肺癌における C.E.A., 第5回京滋肺癌研究会, (昭53.1)

伊藤元彦: 肺癌の組織学的細分類と臨床, 胸部研学術講演会, (昭53.1)

長瀬千秋, 桐林憲司, 伊藤元彦, 寺松 孝: C.W.S. の腫瘍内投与について, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

青木 稔, 長瀬千秋, 伊藤元彦, 寺松 孝: 高令者肺癌の外科的治療, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

北野司久, 高嶋義光, 宮林美福, 青木 稔, 長瀬千秋, 伊藤元彦: C.E.A. 産生肺癌2例の検討, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

高嶋義光, 北野司久, 青木 稔, 長瀬千秋, 伊藤元彦: 免疫賦活剤による末梢血中リンパ球および胸水中単核細胞の細胞障害性の検討, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

高嶋義光, 宮林美福, 北野司久: 馬尾神経転移をきたした肺癌の一症例, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

山家 武, 岡部 学, 岡本齊二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之, 他6名: 70才以上の肺癌の外科療法, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

石原享介, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之, 他8名: “肺癌患者における CEA”. 手術例, false negative 例, 死亡例の検討, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者に対する縦隔鏡検査80例の検討, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

宮本茂充, 池田貞雄, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志: 末期肺癌における癌性疼痛の対策, Brompton mixture の効果, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄, 宮本茂充, 宮本好博, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志: 肺癌患者における C.E.A. の推移, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

桑原正喜, 松原義人, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における P.P.D, P.H.A 反応, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

釜本隆行, 西谷 裕, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 近藤敬一郎, 田中 覚: CT で経過を観察しえた肺癌の ACNU 著効例, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

谷川敬一郎, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 近藤敬一郎: 高令者肺癌の治療の限界, 第28回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.2)

北野司久, 高嶋義光, 宮林美福: 肺癌の外科的療法における Marker としての CEA の意義, 奈良外科学会,

(昭53.3)

山中 晃, 松村理司, 中納誠也, 井上律子, 小林君美: 診断困難であった肺癌の一例, 第89回岐阜外科集談会, (昭53.3)

前里和夫, 人見滋樹, 玉田二郎: 原発性肺線維肉腫の一例, 第一回日本気管支研究会, (昭53.4)

宮本茂充, 池田貞雄, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志: 末期肺癌における癌性疼痛の対策—Brompton Mixture の効果, 第18回日本胸部疾患学会総会, (昭53.4)

松延政一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 寺松 孝, 他1名: コンピューター断層の胸部疾患診断の応用—症巢の質的診断の評価とリンパ節転移の検出能について, 第18回日本胸部疾患学会, (昭53.4)

Morhisa Kitano, Chiaki Nagase, Takashi Teramatsu: Clinical Significance of CEA in Lung Cancer, World Conf, Lung Cancer (53, 5)

伊藤元彦, 長瀬千秋, 青木 稔, 和田洋巳, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 転移性肺腫瘍の外科的治療, 第123回近畿外科学会 (昭53.5)

伊藤元彦: 肺小細胞癌の治療成績—非切除例について—, 厚生省がん研究服部班班会議, (昭53.6)

伊藤元彦: 肺癌手術に併用する“特異的”免疫療法に関する実験的研究, 厚生省がん研究服部班班会議, (昭53.6)

玉田二郎, 寺松孝, 伊藤元彦, 木野稔也, 人見滋樹, 青木 稔: 肺癌集検実施計画, および進行状況, 厚生省がん研究成毛班班会議, (昭53.6)

宮本茂充, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: ブラウの近傍に発生した診断が困難であった肺肉腫, 第123回近畿外科学会, (昭53.6)

岡田英彦, 倉田昌彦, 西本 孝, 本田裕宏: 肋骨腫瘍の検討, 第123回近畿外科学会, (昭53.6)

山中 晃, 井上律子, 松村理司, 中納誠也, 小林君美: 肋骨細網肉腫の一例, 第51回日本結核病学会東海地方会第33回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭53.6)

山中 晃, 井上律子, 中納誠也, 小林君美: 肋骨原発の細網肉腫の2例について, 第52回日本結核病学会東海地方会第34回日本胸部疾患学会東海地方会

神内寿男, 小嶺幸弘, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 西本 孝, 田中 寛: CT (コンピューター断層撮影法)による縦隔腫瘍の検討, 第17回阪神成人病同好会, (昭53.6)

和田洋巳, 松延政一, 寺松 孝: 溶連菌製剤 OK-432 の免疫系におよぼす影響とその Killer 細胞の誘導, 第6回日本臨床免疫学会, (昭53.6)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 青木 稔, 長瀬千秋: Nu マウスに移植されたヒト腫瘍の Tumorigenicity について (第2報), 日本臨床免疫学会, (昭53.6)

長瀬千秋: 組織培養による制癌剤感受性試験の試みとその臨床応用, 第45回日本組織培養学会, (昭53.6)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福, 弘野慶次郎, 市谷迪雄, 転移性肺腫瘍に対する外科療法の検討, 日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福, 北野司久: 重複癌の一手術例, 日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

二宮和子, 他: 肺癌手術患者における CEA の推移, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

前里和夫, 玉田二郎, 人見滋樹: 前胸壁軟骨肉腫の一手術例, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

西本 孝, 倉田昌彦, 岡田英彦, 室本 仁, 田中 寛, 本田裕宏: CT で発見し, 縦隔鏡で診断した縦隔の悪性腫瘍, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

北野司久: Nu マウスを用いた in vivo 制癌剤感受性テストの基礎的研究 (第1報), 厚生省班研究 (下里班), (昭53.6.23)

Sadao, Ikeda, Yoshito, Matsubara, Masayoshi, Kuwabara: Tumor-specific Antigen in Lung Cancer, The XIII th World Congress on Diseases of the chest (53, 7)

Yoshito, Matsubara, Masayoshi, Kuwabara, Sadao, Ikeda: CEA in patients with lung cancer, The XIII th world Congress on Diseases of the chest (53, 7)

Morihisa, Kitano, Chiaki, Nagase, Takashi, Teramatsu: Tumorigenicity of Human Malignant Tumors

Transplanted into Nu-Mice, World Congress on Diseases of the Chest (53, 7)

Matsunobe, S., Wada, H., Ito, M., Teramatsu, T.: Computed tomography of the lung, XIII, World Congress on Diseases of the Chest.

Chiaki Nagase, Minoru Aoki, Yoshimitsu Takashima, Motohiko Ito, Morihisa Kitano, Takashi Teramatsu: Testing in vitro the sensitivity of human lung cancer cell lines to antineoplastic agents Possibility of its clinical application in the future XIII World Congress on Diseases of the Chest (53, 7)

辰巳明利, 坂東義清, 大本一夫, 茂幾俊武, 伊藤政敏, 重康政夫: 早期肺癌自験例について, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

佐藤新太郎, 伊藤元彦: 転移性肺腺癌の一例, 日本臨床細胞学会, (昭53.7)

西本 孝, 倉田晋彦, 中島広明, 他5名: 急速な進展を呈した肺癌の一症例, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

宮本茂充, 畠中陸郎, 松原義人, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 肺内転移巣のみられた高令者肺癌の一切除例, 第19回肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

宮本好博, 宮本茂充, 桑原正喜, ニツ矢義一, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌に対する部分切除例の検討, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

人見滋樹, 鈴木孝世, レシャード・カレット, 前里和夫, 玉田二郎, 鈴木庸之, 奥田 正: 気管支内 Polyposis の一手術例, 第29回肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

立石昭三, 中島道郎, 浜本康平: 気管狭窄を来たした腫瘍性疾患について, 第29回肺癌学会関西支部, (昭53.7)

光岡明夫, 高嶋義光, 宮林美福, 北野司久, 外村聖一, 伊藤元彦, 寺松 孝: 原発性肺癌(扁平上皮癌)に対する Bleomycin-Mitomycin 療法の試み, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

青木 稔, 玉田二郎, 長瀬千秋, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺小細胞癌の組織学的細分類と予後, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

北野司久: 第一回国際肺癌学会に出席して, 特別報告, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福: 転移性肺癌に対する V-MTX-CF 療法の試み, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之, 宮本 武, 石原享介, 玉木長良, 児玉一司, 波多 信, 岩崎博信, 梅田文一, 山田栄一, 中井 準: 縦隔小細胞性未分化癌と考えられる症例, 第29回日本肺癌学会関西支部会, (昭53.7)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福: 心疾患を3年間疑われていた縦隔腫瘍の一治験例, 奈良呼吸器疾患研究会, (昭53.7)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福: プラ感染を初発症状とした肺癌症例, 奈良呼吸器疾患研究会, (昭53.7)

岡田英彦, 倉田昌彦, 西本 孝, 中島広明, 本田裕宏: 再発乳癌の組織学的検討, 第28回乳癌研究会, (昭53.7)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 杉山正敏, 青木 稔, 長瀬千秋: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性試験検査法(第2報) Endoxan を中心にして, 制癌剤適応研究会, (昭53.8)

加藤 譲, 井村裕夫, 倉田昌彦: ヒト乳癌組織の核内離離エストロゲンレセプターについて, 第37回日本癌学会総会, (昭53.8)

池田貞雄, 松原義人, 桑原正喜: 肺癌組織中の腫瘍特異抗原の検索・同一試料より独出した TS 抗原と CEA, 第37回日本癌学会総会, (昭53.8)

松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄: 肺癌患者における CEA 測定(第3報), 第37回日本癌学会総会, (昭53.8)

桑原正喜, 松原義人, 池田貞雄: 腫瘍特異抗原によるリンパ球幼若化反応と皮内反応, 第37回日本癌学会総会(昭53.8)

松原義人, 桑原正喜, 二宮和子, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 宮本好博, 宮本茂充, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 CEA 測定の意義, 第19回日本肺癌学会総会

桑原正喜, 宮本好博, 宮本茂充, ニツ矢義一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における PPD·PHA 皮内反応, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

二宮和子, 池田貞雄, 宮本茂充, 宮本好博, 桑原正喜, ニツ矢義一, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 室本仁, 倉田昌彦: 末期肺癌の癌性疼痛への対策, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福, 青木 稔, 長瀬千秋: 肺癌の補助診断としての CEA の問題点, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 西本 孝, 中島広明, 谷川敬一郎: 高令者肺癌の診断, 治療とその関連因子, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

高嶋義光, 光岡明夫, 北野司久, 青木 稔, 長瀬千秋, 伊藤元彦, 寺松 孝: 免疫化学療法(4)免疫賦活剤の血中リンパ球に対する *in vitro* における刺激効果, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.8)

青木 稔, 長瀬千秋, 伊藤元彦, 寺松 孝: 組織亜型からみた肺小細胞癌の治療成績, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

松延政一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 寺松 孝, 他一名: 肺癌診断と CT, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝, カレド・レシャード, 前里和夫, 人見滋樹: 原発性肺癌における放射線療法後の咯血死, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

和田洋巳, 松延政一, 伊藤元彦, 外村聖一, 寺松 孝: 免疫アジュバント OK-432 の基礎的臨床的評価, 第19回日本肺癌学会総会, (昭53.9)

伊藤元彦: 肺癌に対する limited operation, 第19回日本肺癌学会総会シンポジウム, (昭53.9)

中納誠也, 小林君美, 井口律子, 松村理司, 山中 晃: 縦隔腫瘍手術45症例についての検討, 第14回中部外科学会総会, (昭53.9)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 青木 稔, 長瀬千秋: 担癌生体の免疫反応(4) Marker としての T.A.A. の意義について, 日本癌治療学会, (昭53.9)

杉山正敏, 高嶋義光, 光岡明夫, 北野司久, 長瀬千秋: Nu-マウス移植人肺癌を用いた実験的化学療法(第一報), 第19回日本肺癌学会, (昭53.9)

桐林憲司, 長瀬千秋, 和田洋巳, 伊藤元彦: 外科からみた腫瘍の concomitant immunity に関する研究, 第16回日本癌治療学会, (昭53.10)

佐藤新太郎: 肺結核によく似た肺癌2例, 京都医学会, (昭53.9)

長瀬千秋: シンポジウム「癌化学療法の問題点」発言“感受性試験の問題点”, 第16回日本癌治療学会総会, (昭53.9)

畠中陸郎: 肺癌(CEA)について, 伏見医師会学術講演会, (昭53.9)

青木 稔, 玉田二郎, 長瀬千秋, 和田洋巳, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 胸壁腫瘍自験例の検討, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

松原義人, 船津武志, 畠中陸郎, 桑原正喜, ニツ矢義一, 宮本好博, 二宮和子, 池田貞雄, 甲斐隆義: 肺癌外科療法による N-因子 縦隔鏡検査からの検討, 第31回日本胸部外科学会総会シンポジウム, (昭53.10)

宮本好博, 宮本茂充, 桑原正喜, ニツ矢義一, 松原義人, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺結核に合併した肺癌, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

北野司久, 高嶋義光, 光岡明夫, 宮林美福: 肺癌の外科療法におけるマーカーとしての CEA の臨床的意義について, 日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

加藤弘文, 玉田二郎, 長瀬千秋, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 転移性肺腫瘍の外科治療, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

北野司久: 癌免疫の理論と実際, 特別講演, 日本口腔外科学会近畿地方会, (昭53.10)

佐藤新太郎, 安淵義男: 発生前後から観察することの出来た肺の扁平上皮癌, 国立病院療養所総合医学会, (昭53.10)

伊藤元彦: 亜型別にみた腺癌の手術成績, 厚生省がん研究服部班班会議, (昭53.11)

伊藤元彦: 肺癌手術における OK-432 の併用効果, 厚生省がん研究服部班班会議, (昭53.11)

寺松 孝：53年度肺癌集検報告，厚生省がん研究成毛班班会議，（昭53.11）

人見滋樹：肺癌の内視鏡診断，大阪医師会学術講演会，大阪から肺がんをなくす会，第53年度研究助成会受賞記念報告会，（昭53.11）

北野司久：Nu-マウスを用いた制癌剤感受性テスト…標的細胞として Lp12 細胞を用いた場合，厚生省班研究，下里班班会議，（昭53.11）

高嶋義光，光岡明夫，宮林美福，北野司久：交通事故で発見された肺癌2例，奈良呼吸器疾患研究会，（昭53.11）

松延政一，和田洋巳，外村政一，寺松 孝，伊藤元彦：コンピューター断層 (CT) の肺癌診断への応用，第16回日本社会保険医学会，（昭53.11）

和田洋巳，松延政一，外村聖一，寺松 孝：癌と免疫療法—溶連菌製剤 OK-432 の検討，第16回日本社会保険医学会，（昭53.11）

宮本 覚，西内 素，中村隆澄，山家 武，立道 清，庄村東洋，吉栖正之，波多 信，黒田 昭，石原享介，岩崎博信，梅田文一，山田栄一，中井 準：同一部に癌病巣と結核病巣が混在した肺癌の一症例，第12回兵庫県肺癌懇話会，（昭53.11）

岡田英彦，倉田昌彦，中島広明，本田裕宏：乳癌組織所見と予後との関連について，第124回近畿外科学会，（昭53.11）

光岡明夫，高嶋義光，宮林美福，北野司久：術前に診断された縦隔腫瘍の3症例—CT スキャンの意義と限界，第124回近畿外科学会，（昭53.11）

宮本茂充，池田貞雄，宮本好博，桑原正喜，二ツ矢義一，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志：肺癌患者における ACTH と α_1 -Antitrypsin，第44回日本結核病学会近畿地方会，第14回胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

松原義人，池田貞雄，桑原正喜，宮本好博，宮本茂充，二ツ矢義一，畠中陸郎，二宮和子，船津武志：縦隔リンパ節における腫瘍特異抗体の検索，第44回日本結核病学会近畿地方会，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

伊東政敏，大本一夫，辰巳明利，坂東義清，茂幾俊武，重康牧夫：肺癌（早期肺癌を含む）の臨床的検討，第53回中回四国外科学会，（昭53.11）

伊東政敏，大本一夫，坂東義清，福中道男，茂幾俊武：肺癌外科治療の経験—免疫療法との併用—，第2回岡山癌免疫化学療法研究会，（昭53.12）

2. 結 核

生嶋宏彦：結核性膿胸の治療，特に開放療法への適応，第53回日本結核病学会総会，（昭53.4）

和田洋巳，松延政一，山本博昭，寺松 孝：膿胸治療における治療目標点に関する再検討，第53回日本結核病学会総会，（昭53.4）

安淵義男：印象的な肺結核の1例，滋賀県医師会

Yamamoto, H. and Matsutani, Y.: Cavernostomy: A local surgical technique for the treatment of pulmonary tuberculosis. XIII World Congress on Diseases of the Chest (53, 7)

3. 胸 腺・免 疫

高嶋義光，光岡明夫，宮林美福，北野司久：六才児にみられた Thymic hyperplasia の一治療例，第123回近畿外科学会，（昭53.6）

H. Wada, S. Matsunobe and T. Teramatsu: T-B subpopulations in myasthenia gravis and normal thymus. XIII World Congress on Diseases of the Chest. (53, 7)

和田洋巳，松延政一，伊藤元彦，寺松 孝：自験胸腺腫例の再検討—病理学的側面を中心として—第31回日本胸部外科学会総会，（昭53.10）

倉田昌彦，岡田英彦，中島広明，西本 孝，西谷 裕，松谷之義：重症筋無力症における胸腺腫摘出手術，第

31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

住友伸一, 和田洋巳, 千原幸司, 伊藤元彦, 寺松 孝: 浸潤傾向を示す胸腺腫の治療経験, 第124回近畿外科学会, (昭53.11)

森川 茂, 富山俊一, 光岡明夫, 原田孝之, 鈴木幸雄, 井上勝美: Helper T 細胞と遅延型アレルギーにおける抗原特異的 suppressor T 細胞の異同について, 第8回日本免疫学会総会, (昭53.11)

光岡明夫, 伊藤元彦, 寺松 孝, 馬場満男, 中田利一, 森川 茂: ビール酵母細胞壁成分の細胞性免疫増強効果, 第8回日本免疫学会総会, (昭53.11)

Y. Matsutani and H. Yamamoto: Embryological study on abberant thymus—the limitation of surgical treatment for myasthenia gravis. XIII World Congress on Diseases onf the Chest (53, 7)

4. 人工材料

寺松 孝: 当部門における医用高分子材料に関する研究, 胸部研学術講演会, (昭53.1)

宮本好博, 加藤弘文, 清水慶彦, 日野常稔, 岡村誠三: コラーゲン合成高分子複合体を用いた人工気管の研究, 第78回日本外科学会総会, (昭53.4)

加藤弘文, 松延政一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: 新医用材料ポパール・シリカ複合体(第一報), 抗血栓性材料としての基礎的検討第78回日本外科学会総会, (昭53.4)

清水慶彦: 矯正再建外科に使用しうる軟性人工医用材, 第21回日本胸部外科学会関西地方会シンポジウム, (昭53.6)

T. Teramatsu, H. Yamamoto, Y. Shimizu, R. Abe, H. Kato, Y. Miyamoto, S. Matsunobe: Reconstructive surgery of the trachea and bronchial tree with artificial biomaterials. XIII World Congress on Disease of the Chest (53, 7)

T. Teramatsu, Y. Shimizu, H. Kato and Y. Miyamaoto: Physiological function of trachea after reconstructive tracheal surgery using artificial materials. I. World Congress on Bronchoscopy (53. 7)

清水慶彦, 日野常稔: 生体とポリマーの接触界面の諸問題, 文部省特定研究医用高分子材料に関する基礎的研究第3回全体会議, (昭53.7)

加藤弘文, 松延政一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: 新医用材料 polyvinyl. alcohol-silica 複合体(第2報)組織適合性について, 第16回日本人工臓器学会大会, (昭53.9)

渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝, 他3名: ウロキナーゼ固定化—コラーゲン被覆合成高分子について, 第16回日本人工臓器学会大会, (昭53.9)

松本守海, 山本博昭, 清水慶彦, 加藤弘文, 宮本好博, 寺松 孝, 日野常稔, 岡村誠三, 柴田 一: 人工材料による胸壁, 横隔膜, 心膜などの欠損部補填に関する研究, 第16回日本人工臓器学会大会, (昭53.9)

宮本好博, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔, 岡村誠三: コラーゲン合成高分子複合体を用いた人工気管の研究(第2報), 第16回日本人工臓器学会大会, (昭53.9)

寺松 孝: “Reconstruction of the trachea with a silcone prosthesis” 特別発言, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

松本守海, 山本博昭, 松谷之義, 青木 稔: 膿胸腔縮少法の検討および人工材料による胸壁欠損補填に関する研究, 第27回共済医学会総会, (昭53.10)

5. 心 血 管

庄村東洋, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 吉栖正之, 柳原皓二, 加藤 洋, 大脇 巖, 吉川純一, 深谷 隆, 富田安彦, 馬場国蔵: 左心機能からみた大動脈弁膜疾患に対する手術適応ならびに時期決定に関する検討, 第42回日本循環器学会総会, (昭53.3)

馬場国蔵, 深谷 隆, 富田安彦, 庄村東洋, 吉栖正之: 小児期各種心疾患における左室拡張期能, —Stress, Compliance, Stiffness constant および Elastic stiffness—, 第42回日本循環器学会総会, (昭53.3)

田村康一, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 他一名: 当院に於ける虚血性心疾患手術例の検討, 第107回静岡県外科医会集談会, (昭53.3)

中村隆澄, 岡本交二, 岡部 学, 柳井映二, 宮本 覚, 西内 素, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: IABP 中および IABP 後に施行した心筋硬塞に対する外科治療, 第78回日本外科学会総会, (昭53.4)

宮本 覚, 岡部 学, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: PDAを伴う先天性心筋治療上の問題点, 第8回日本心臓血管外科学会総会, (昭53.5)

山家 武, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 庄村東洋, 吉栖正之: Porcine xenograft による弁置換の成績, 特に術後血行動態的検討, 第8回日本心臓血管外科学会総会, (昭53.5)

庄村東洋, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 吉栖正之: 心筋硬塞及びその合併症に対する手術—心室瘤切除術の効果と予後について, 第8回日本心臓血管外科学会総会, (昭53.5)

中納誠也, 小林君美, 井口律子, 松村理司, 山中 晃: 人工弁置換術後の外来管理に対する検討, 第90回岐阜外科集談会, (昭53.5)

田村康一, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 他五名: 当院に於ける虚血性心疾患手術症例の検討, 第45回日本循環器学会東海地方会, (昭53.6)

中村隆澄, 岡本交二, 岡部 学, 宮本 覚, 西内 素, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 心室中隔穿孔を合併した心筋硬塞に対する急性期外科治療, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

宮本 覚, 岡本交二, 岡部 学, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 後術 over pacing 下 IABP が奏効した重症連合弁膜症の一治験例, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

西内 素, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 開心術後患者管理における EVR と MSER の意義, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

山家 武, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 長時間体外循環に伴う末梢血管抵抗上昇に対する対策, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

岡本交二, 岡部 学, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: Discrete 型大動脈弁下狭窄症の一治験例, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

高塚勝哉, 加藤 洋, 柳原皓二, 大脇 嶺, 奥町富久丸, 高木義博, 波多 信, 児玉一司, 吉川純一, 馬場国藏, 富田安彦, 深谷 隆, 庄村東洋, 吉栖正之: 肺動脈弁疣贅 2 例の超音波所見, 第45回日本循環器学会近畿地方会総会, (昭53.6)

児玉一司, 高塚勝哉, 波多 信, 大脇 嶺, 加藤 洋, 柳原皓二, 奥町富久丸, 高木義博, 吉川純一, 庄村東洋, 吉栖正之: 左房圧迫性縦隔洞腫瘍の超音波像, 左房内腫瘍との鑑別上の問題点について, 第45回日本循環器学会近畿地方会, (昭53.6)

波多 信, 児玉一司, 高塚勝哉, 高木義博, 奥町富久丸, 柳原皓二, 加藤 洋, 大脇 嶺, 吉川純一, 庄村東洋, 吉栖正之: 異型狭心症の臨床像および冠動脈造影像について, 第45回日本循環器学会, (昭53.6)

伊東政敏, 茂幾俊武, 坂東義清, 辰巳明利, 大本一夫, 田中陸男: 動脈管開存症合併心疾患の手術経験, 第21回日本胸部外科学会関西地方会, (昭53.6)

Toyo Shomura, Satoru Miyamoto, Sunao Nishiuchi, Takasumi, Nakamura, Takeshi, Yamaga, Masayuki, Yoshizumi: Intra-Aortic Balloon Pumping and Surgery for Cardiogenic Shock, XIII World Congress on Diseases of the Chest (1978, 7)

泰江弘文, 表 信吾, 田中 暁, 秋山文弥: Coronary Arterial Spasm and Anginal Attack Induced by Hyperventilation, XIII World Congress on Diseases of the Chest, (1978, 7)

佐々木 功, 水野春雄, 石橋 貢, 普久原朝政, 秋山文弥: 肥大性閉塞性心筋炎 8 例—自験 8 例の臨床を中心として, 第14回日本小児循環器研究会総会, (昭53.7)

田村康一, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎: Extracardiac Conduit を用いた総動脈幹症の手術治療例, 第109回静岡県外科医会集談会, (昭53.9)

上野陽一郎, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一: Anuloaortic ectasia に対する Bentall 手術の一治療例, 日本循環器学会第46回東海・第13回北陸合同地方総会, (昭53.10)

小林君美, 井口律子, 中納誠也, 松村理司, 山中 晃, 森 厚, 他一名: 人工弁置換術後の外来管理に対する検討, 第33回国立病院療養所総合医学会, (昭53.10)

篠崎 拓, 秋山文弥, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎: 僧帽弁狭窄症手術 439 例の臨床的検討, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

島本光臣, 秋山文弥, 篠崎 拓, 田村康一, 上野陽一郎: Cold Cardioplegia の臨床的検討, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

山家 武, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 心筋硬後の合併症に対する手術, 特に手術適応とその時期についての考察, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

西内 素, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 僧帽弁膜症術後急性期における, Low Cardiac Output Syndrome の発生, 第31回日本胸部外科学会総会 (昭53.10)

庄村東洋, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 吉栖正之: Mistral Complex の形態と手術成績からみた僧帽弁輪形成術の再検討, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

中村隆澄, 岡本交二, 岡部 学, 宮本 覚, 西内 素, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 基礎的研究ならびに臨床成績からみた intraaortic pumping の適応と限界, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

宮本 覚, 岡部 学, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之, 馬場国蔵, 深谷 隆, 富田安彦: 全肺静脈還流異常症の外科治療, 特に術後患者管理の問題点, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

宮本 覚, 西内 素, 山家 武, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 高度肺高血圧を伴う心室中隔欠損の根治術遠隔期における心機能, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)

立道 清, 岡部 学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 庄村東洋, 吉栖正之: 腹部大動脈瘤破裂に対する胸部下行大動脈遮断の有用性について, 第124回近畿外科学会, (昭53.11)

茂幾俊武, 大本一夫, 辰巳一夫, 坂東義清, 伊東政敏, 内田発三: 血管外科1年の経験, 日本循環器学会中国四国地方会, 第33回総会, (昭53.11)

岡部 学, 田中孝二, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 肺動脈弁疣贅に基づく肺動静弁開鎖不全症を伴った高位心室中隔欠損症の一治験例, 第46回日本循環器学会近畿地方会総会, (昭53.12)

中村隆澄, 田中孝二, 岡本交二, 岡部 学, 宮本 覚, 西内 素, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之, 深谷 隆, 富田安彦, 馬場国蔵: Krentzer 手術の一例, 第46回日本循環器学会近畿地方会, (昭53.12)

宮本 覚, 岡部 学, 岡本交二, 西内 素, 中村隆澄, 山家 武, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之, 深谷 隆, 富田安彦, 馬場国蔵: フェロー四徴症を合併した総肺静脈還流異常症の一治験例, 第46回日本循環器学会近畿地方会, (昭53.12)

倉田昌彦, 他7名: 左冠動脈口狭窄を認めた高安動脈炎の1例, 第46回日本循環器学会近畿地方会, (昭53.12)

6. 一般胸部疾患, その他

人見滋樹: 肺の基本構築, 門真市医師会胸部レントゲン読影講演会, (昭53.1)

酒井雅子, 立石昭三, 浜本康平, 他: 小児肺嚢胞症について, 第306回小児科学会京都地方会, (昭53.2)

人見滋樹: 無気肺陰影, 門真市医師会胸部レントゲン読影講演会, (昭53.2)

中島道郎, 立石昭三: 外傷性呼吸困難症の治療経験, 第3回京都救急医療研究会, (昭53.2)

前里和夫, 人見滋樹, 玉田二郎: びまん性陰影を呈した進行性全身性強皮症の1例, 第2回びまん性肺疾患研究会, (昭53.2)

人見滋樹: 空洞陰影, 門真市医師会胸部レントゲン読影講演会, (昭53.3)

坂東義清, 大本一夫, 辰巳明利, 茂幾俊武, 伊東政敏: 咯血を来たした1例, 第11回岡山胸部疾患懇話会, (昭53.2)

辰巳明利, 大本一夫, 坂東義清, 茂幾俊武, 伊東政敏: Morgagni 孔ヘルニアの1治験例, 第75回岡山外科会, (昭53.2)

寺松 孝：胸部開胸法，第10回手術技研究会，（昭53.4）

桑原正喜，宮本茂充，宮本好博，ニツ矢義一，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：高令者自然気胸の治療，第18回日本胸部疾患学会総会，（昭53.4）

伊藤元彦，長瀬千秋，光岡明夫，青木 稔，永田明義：酵素組織化学的所見からみた気管支腺の機能と構造，第18回日本胸部疾患学会，（昭53.4）

玉田二郎，前里和夫，人見滋樹：胸水糖値の決定因子，第18回日本胸部疾患学会，（昭53.4）

立石昭三，浜本康平，他：気管支動脈栓塞の手技と適応，第18回胸部疾患学会総会，（昭53.4）

土屋和之，岡田慶夫，淡河秀光，興梶直志，藤岡満喜夫：肺胞刷子細胞の機能と構造について，第18回日本胸部疾患学会総会，（昭53.4）

人見滋樹：気胸様陰影，門真医師会胸部レントゲン読影講演会，（昭53.4）

人見滋樹：円形陰影，門真医師会胸部レントゲン読影講演会，（昭53.5）

前里和夫，玉田二郎，カレッド・レシャード，人見滋樹：側頸嚢胞の1 治験例，第123回近畿外科学会，（昭53.6）

加藤弘文，長瀬千秋，和田洋已，清水慶彦，伊藤元彦，寺松 孝：小児胸部疾患に対する外科治療の経験，第123回近畿外科学会，（昭53.6）

和田洋已，松延政一，寺松 孝，外村聖一：自然気胸治療に於けるW-バルブドレナージチューブの使用経験，第123回近畿外科学会，（昭53.5）

桑原正喜，宮本茂充，宮本好博，ニツ矢義一，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：両性気胸33例の臨床的検討，第123回近畿外科学会，（昭53.6）

阿部弘毅，立石昭三，浜本康平，他：右鎖骨下動脈瘤の一治験例，第21回胸部外科関西地方会，（昭53.6）

秋山文弥：シンポジウム，胸廓に於ける矯正・再建手術—漏斗胸手術の全国調査及び腹直筋有茎性胸骨翻転法の成績と術式に就いて，第21回日本胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

大本一夫，辰巳明利，坂東義清，茂幾俊武，伊東政敏，重康牧夫：Bourneville-Pringle 母斑症に合併した自然気胸の手術例，第21回日本胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

茂幾俊武，大本一夫，辰巳明利，坂東義清，伊東政敏：非破裂性巨大肺嚢胞の治療について，第76回岡山外科会，（昭53.6）

宮本好博，桑原正喜，ニツ矢義一，宮本茂充，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺クリプトコッカス…1 自験例と文献的考察，第21回日本胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

ニツ矢義一，宮本好博，桑原正喜，宮本茂充，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：血気胸11例の臨床的検討，第21回日本胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

和田洋已，松延政一，外村聖一，寺松 孝：一側肺野を占める神経原性腫瘍の診断と治療，第21回日本胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

立石昭三，浜本康平，他：食道・気管支瘻の手術について，第21回胸部外科学会関西地方会，（昭53.6）

中島道郎，立石昭三，浜本康平，他：血気胸の対策について，第20回近畿救急医療研究会，（昭53.8）

畠中陸郎：自然気胸の治療，西京医師会学術講演会，（昭53.6）

土屋和之，藤岡満喜夫，興梶直志：肺胞刷子細胞の超微形態学的研究，第34回日本電子顕微鏡学会学術講演会，（昭53.6）

人見滋樹：縦隔陰影の読み方，門真市医師会胸部レントゲン読影講演会，（昭53.6）

Ito, M., Nagase C., Mitsuoka, A., Aoki, M. and Nagata, A.: Studies on the structure and function of the bronchial gland—Significance of the bronchial gland as a local defense mechanism—XIII World Congress on Disease of the Chest (53, 7)

K. Hijiya, Y. Okada, and T. Teramatsu: Morphologic and Biochemical Study of the Rat Lung after Repeated Injections of Bleomycin Sulfate. XIII W·C·D·C. Kyoto (53,7)

Hitomi, S., Ikeda, S., Kahi, T. and Funatsu, T.: Diagnostic Value of Contrast Thoracography. XIII

W·C·D·C. Kyoto (53, 7)

Masayoshi Kuwabara, Sadao Ikeda, Yoshito Matsubara: Management of Spontaneous Pneumothorax. XIII W·C·D·C. Kyoto (53, 7)

Hitomi, S., and Teramatsu, T.: Indications and limitations of transbronchoscopic lung biopsy, especially for the definitive diagnosis of disseminated shadow. The First World Congress on Bronchoscopy, Panel Discussion, Japan (53, 7)

人見滋樹：びまん性肺疾患，門真市医師会胸部レントゲン読影講演会，（昭53.7）

K. Hijiya: Ultrastructure and Derivation of the alveolar brush cell. 9th International Congress on Electron Microscopy. (53, 8)

人見滋樹：肺疾患の内視鏡診断，門真市医師会胸部レントゲン読影講演会，（昭53.8）

土屋和之，岡田慶夫，藤岡満喜夫，淡河秀光，興梠直志：肺胞毛細血管の機能と構造について，日本臨床電子顕微鏡学会総会，（昭53.9）

土屋和之：“肺胞刷子細胞とB型肺胞上皮の関連性”，間質性肺炎，シンポジウム“B型肺胞上皮をめぐる諸問題”第12回FLDシンポジウム，（昭53.9）

青木 稔，伊藤元彦，平井圭一：Peroxidase 活性を指標としたラット気管腺の分化誘導過程，第19回日本組織化学会，（昭53.10）

玉田二郎，寺松 孝：自然気胸例の呈示，第4回京都救急医療研究会，（昭53.10）

玉田二郎：術後肺合併症に対する気管支鏡の応用，第8回近畿気管支鏡懇話会，（昭53.10）

大本一夫，辰巳明利，坂東義清，茂幾俊武，伊東政敏，重康牧夫：自然気胸を繰返した1例，第12回岡山胸部疾患懇話会，（昭53.9）

桑原正喜，畠中陸郎，池田貞雄，宮本茂充，宮本好博，二ツ矢義一，松原義人，二宮和子，船津武志：自然気胸の治療—229例の臨床的検討，第31回日本胸部外科学会総会，（昭53.10）

玉田二郎，カレッド・レシャード，前里和夫，人見滋樹：特発性気胸の治療—チューブドレナージ法を中心に，第31回日本胸部外科学会総会パネルディスカッション，（昭53.10）

中納誠也，小林君美，井上律子，松村理司，山中 晃：縦隔・肺疾患における縦隔鏡検査の応用価値に対する検討，第31回日本胸部外科学会総会，（昭53.10）

池田貞雄：呼吸不全について，東山医師会学術講演会，（昭53.10）

土屋和之，岡田慶夫，池田正尚，田中歳郎：肺胞毛細血管の構築および透過性について，第19回日本脈管学会総会，（昭53.10）

山本博昭，松谷之義，青木 稔，松本守海：自然気胸の外科的治療，第27回共済医学会総会，（昭53.10）

立花暉夫，人見滋樹，他3名：過敏性肺臓炎の家族発生例，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

カレッド・レシャード，前里和夫，人見滋樹：自然気胸や胸膜炎に対する胸膜癒着術の効果判定のための胸腔造影法の意義，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

人見滋樹，前里和夫，カレッド・レシャード，立花暉夫：びまん性肺疾患に対する TBLB の問題点，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

中島道郎，立石昭三，浜本康平，桐林憲治，他：突然急死した慢性リューマチ肺の1例，第14回日本胸部疾患近畿地方会，（昭53.11）

宮本好博，宮本茂充，二ツ矢義一，桑原正喜，二宮和子，松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：原発性肺クリプトコッカス症の2切除例，第44回日本結核病学会，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

桑原正喜，二ツ矢義一，宮本好博，宮本茂充，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：巨大肺嚢胞症の治療，第44回日本結核病学会，第14回日本胸部疾患学会近畿地方会，（昭53.11）

福中道男，大本一夫，坂東義清，茂幾俊武，伊東政敏：漏斗胸の手術経験，第77回岡山外科会，（昭53.11）

二ツ矢義一，宮本茂充，宮本好博，桑原正喜，松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄，二宮和子，若林陽夫：食道平滑筋腫の3例，第124回近畿外科学会，（昭53.11）

桑原正喜，宮本好博，宮本茂充，二ツ矢義一，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：巨大肺

嚢胞症に対する経皮嚢胞内視鏡, 第124回近畿外科学会, (53.11)

山家 武, 岡 部学, 岡本交二, 宮本 覚, 西内 素, 中村隆澄, 立道 清, 庄村東洋, 吉栖正之: 両側巨大ブラに対する同時開胸手術の検討, 第124回近畿外科学会, (昭53.11)

中島広明, 岡田英彦, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲: 自然気胸のハイムリッヒ弁による外来通院治療の成績, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会 (京都), (昭53.11)

藤田正憲, 室本仁, 倉田昌彦, 岡田英彦, 中島広明, 田中 寛: 非癌疾患における CT の検討, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11)

千原幸司, 住友伸一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 寺松 孝: Giant lymph node hyperplasia (Castleman) の1例, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11)

玉田二郎, 松村理司, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 術後肺合併症に対する Transnasal flexible bronchoscopy, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11)

前里和夫, カレッド・レシャード, 人見滋樹: 術後無気肺に対する2, 3の対処法, 第124回近畿外科学会, (昭53.11)

寺松 孝: 肺縦隔手術後のドレナージ, 第11回手術手技研究会, (昭53.11)

上野陽一郎, 秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一: 気管支原性嚢腫の2手術例, 第52回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭53.11)

人見滋樹: 気胸様陰影, 門真市医師会胸部レントゲン読影講演会, (昭53.11)

外村聖一, 松村政一, 和田洋巳, 寺松 孝: 左全胸腔を占める巨大腫瘍 (胸膜中皮腫) の診断と加療, 第16回日本社会保険医学会, (昭53.11)

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 田村康一, 上野陽一郎: ポーランド症候群6例, 第52回日本胸部疾患学会東海地方会, (昭53.11)

伊藤元彦: 気管・気管支腺の機能と構造—組織化学的所見を中心に, ACCP 日本支部会講演会シンポジウム, (昭53.12)

人見滋樹: 肺癌, 門真市医師会胸部レントゲン読影講演会, (昭53, 12)

病 理 学 部 門

〔研究業績〕

1. 肉芽研究グループ (安平他)

結核菌のもつ種々の生物活性の多くが, その細胞壁の主成分であるロウDにあることが知られてきた。結核症の組織学的特徴とされている類上皮細胞肉芽も, ロウDの活性に基くものであるが, 最近ロウDの adjuvant 活性が, その peptidoglycan 部分に, 更に言へばその muramyl dipeptide (MDP) 部分に局在することが報ぜられ, また MDP はラットのリンパ腺に類上皮細胞肉芽を作ることが示された。そこで我々は, ロウDの peptidoglycan 部分, MDP 及びその analogs, また MDP 構成成分である muramyl-alanine, muramic acid 等を使用して, その肉芽形成活性と共に, 抗原性を検討し, 肉芽形成機序に関する基礎的見解に到達した。成績については順次発表の予定である。

2. 結合組織研究グループ (竹田他)

イギリスより帰国の浜弘道氏の近畿大学医学部整形外科教室に帰任, 本研究所の非常勤講師として協力することになった。本学医学部整形外科教室 (山室隆夫教授) との協同研究は順調に進行中で, 真田浩幸, 四方実彦, 浜本肇の3君は略実験を終了して臨床に専心し, 目下は大学院学生石井正治, 清水克時の両君の仕事が進行中である。同産婦人科大学院学生小笹宏君もこのグループで研究中。別に本研究所内1より移ってきた細川昌則, 大学院学生となった入野美香両氏が, 研究の軸となって活躍中である。尚東京都養育院整形外科部長五十嵐三都男氏も非常勤講師として協力している。

〔学 会 発 表〕

細川昌則, 井上邦雄, 竹田俊男: 結合織に関する実験的研究7, 変異した3T6線維芽細胞株の諸特性, 特にそのコラーゲン線維形成に関して, 第67回日本病理学会総会(昭53.4)

竹田俊男, 井上邦雄, 富士森良輔, 浜本 肇, 山室隆夫: 結合織に関する実験的研究8, 拘縮現象の病態生理, 第67回日本病理学会総会(昭53.4)

井上邦雄, 森口隆彦, 山田瑞穂, 富士森良輔, 佐山重敏, 竹田俊男: 肥厚性癆痕の維維芽細胞にみられた興味ある形態学的所見について, 第21回日本整形外科学会総会(昭53.4)

浜本肇, 上羽康夫, 須藤容章, 竹田俊男: Dupuytren 拘縮に関する実験的研究, 第51回日本整形外科学会総会(昭53.5)

石井正治, 井上邦雄, 細川昌則, 山室隆夫, 竹田俊男: マウス線維芽細胞の臓器特異性, 1)ハイドロコーチゾン感受性について, 第10回日本結合組織学会総会(昭53.7)

細川昌則, 竹田俊男, 石井正治, 井上邦雄: 3T6 変異細胞株のコラーゲン線維形成について, 第10回日本結合組織学会総会(昭53.7)

竹田俊男, 小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄: マウス頸管 lysyl oxidase とその意義, estrous cycle 及び妊娠時の同酵素活性について, 第10回日本結合組織学会総会(昭53.7)

小笹 宏, 富永敏朗, 西村敏雄, 竹田俊男: ヒト真皮線維芽細胞の 5 α -DHT リセプター及びその細胞効果, 第10回日本結合組織学会総会(昭53.7)

Hamamoto, H., Ueba, Y., Sudo, Y., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Dupuytren's contracture: morphological and biochemical changes in the pulmar aponeurosis. XIV SICOT, Oct. 1978, Kyoto.

佐藤公彦, 竹田俊男, 佐川弥之助: パラコート肺における肺胞マクロファージの態度, 肺線維症シンポジウム(昭53.9)

竹田俊男, 細川昌則: 変異した3T6線維芽細胞株における Collagen 線維形成, 第30回国立大学付置研究所結核及び胸部疾患談話会(昭53.11)

〔誌 上 発 表〕

Sanada, H., Shikata, J., Hamamoto, H., Ueba, Y., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Changes in collagen cross-linking and lysyl oxidase by estrogen. Biochem. Biophys. Acta 541: 408-413 1978.

3. 免疫グループ(安平他)

島根医科大学へ移動した森川グループの残務整理的な仕事が進んでいる。島根医大へは森川茂, 原田孝之, 鈴木幸雄の諸告が移り, 富山俊一氏は和歌山大耳鼻科に, 金沢進氏は科研薬化工研究所大津分室へと, それぞれ古巣に帰り, 大学院生光岡明夫氏は天理病院胸部外科に赴任し, 同じく巽英二氏は協同研究を終えて本学内科Iに復帰した。尚現在, 森川氏の他に, 水島裕, 熊沢義雄, 馬場満男の3氏が非常勤講師として研究に協力中である。

〔誌 上 発 表〕

原田孝之: 肝ラクトーゼとラクトパーオキシダーズの組織内分布に関する免疫組織学的研究, 神大医学部紀要 37(2): 1977

田嶋政郎, 巽 英二, 沢田博義, 内野治人, 森川 茂: Tリンパ球性白血病細胞株の Td Γ 活性, 医学のあゆみ 103: 862-863, 1977

Morikawa, S., Tatsumi, E., Baba, M., Harada, T. and Yasuhira, K.: Two E-rosette-forming lymphoid cell lines. Int. J. Cancer 21: 166-170, 1978.

Mitsuoka, A., Teramatsu, T., Baba, M., Morikawa, S. and Yasuhira, K.: Delayed hypersensitivity in mice induced by intravenous sensitization with sheep erythrocytes: evidence for tuberculin type delayed hypersensitivity of the reaction. Immunology 34: 363-370, 1978.

4. 化学発癌グループ（高橋他）

助手高橋権也をリーダーに、医員木下和之、大学院生橋本研二、教室主任安平が加ってグループを形成している。橋本は健康不順で前半予定した研究が進まず不調であったが後半進歩が認められた。高橋の GC-MS による化学発癌剤の組織内同定は、3-methylcholanthrene に関しては昨秋その原著が Gann 誌に発表され、benzo (a) pyrene に関しては Cancer Res. 誌にアクセプトされ、この春発表に至る予定である。いつれにしろ生体内発癌物質がガスマスによって同定、定量されるこの試みは世界に先駆ける研究であって、今後の発展が期待される。他に東北大抗研化学療法部渡辺民朗教授を非常勤講師の協力者として迎えている。

〔学 会 発 表〕

木下和之、高橋権也：新生仔マウスににおける 1-hydroxy および 2-hydroxy 3MC の発癌性、第37回日本癌学会総会講演（昭53.8）

高橋権也、木下和之、安平公夫：ガスクロ質量分析計によるベンツピレン誘導体の検出、第37回日本癌学会総会講演（昭53.8）

〔誌 上 発 表〕

高橋権也、鈴木康弘：GC-MS による 3-メチルコランスレン代謝産物の分離と同定、医用マス研究会講演集第 2 巻 73-77, 1977.

Takahashi, G.: Macroautoradiographic study of the distribution of ^{14}C -dimethylnitrosamine in mice and fetuses. Bull. Chest Dis. Res. Inst., Kyoto Univ. 11: 81-85, 1978.

Takahashi, G., Kinoshita, K. and Yasuhira, K.: Macroautoradiographic assays of ^{14}C -labeled 4-nitroquinoline 1-oxide in adult and fetal mice. Bull. Chest Dis. Res. Inst. Kyoto Univ. 11: 86-90, 1978.

Takahashi, G.: Separation and identification of 3-methylcholanthrene-related compounds by gas chromatography-mass spectrometer. Gann 69: 437-439, 1978.

5. 表面活性物質研究グループ（鈴木他）

肺表面活性物質の組成と表面活性との関連ならびに産生調節の機構を明らかにすることが主目的である。このため活性物質の aging に伴う変化又は、実験的脂質代謝異常を誘発したラットの表面活性物質を用い、コレステロールとレシチンの相対的な差異、レシチン分子種の変化による活性への影響を検討し、レシチン：コレステロール比が表面活性物質の surface spreading に大きな影響を有することを明らかにした。さらに田畑の行った臓器中 acyl CoA の測定では、肺に関して、そのレシチン分子種と acyl CoA との間に密接な関連があることが示され、レシチン分子種の決定の調節因子の一つとしての acyl CoA 濃度の問題が重要であることが示唆された。協力者は鈴木康弘（助手）、田畑良宏（研修員）の他、非常勤講師として東海大医学部内科助教授沢田英夫氏。

〔学 会 発 表〕

鈴木康弘、田畑良宏、大川欣一：肺表面活性物質におよぼす D-galactosamine の影響(2)、第67回日本病理学会総会（昭53.4）

田畑良宏、鈴木康弘：肺および肝臓の long chain acyl CoA の測定、第6回日本界面医学会（昭53.6）

鈴木康弘、田畑良宏、高橋権也：GC-MS による各種レシチン分子種の微量定量に関する検討、第2回医用マス研究会（昭53.11）

〔誌 上 発 表〕

鈴木康弘、田畑良宏、高橋権也：GC-MS による各種レシチン分子種の微量定量に関する検討、医用マス研究会講演集 3, 193-200, 1978.

Sudo, M., Tanioka, K., Momoi, T., Akaishi, K. and Suzuki, Y.: Identification of fatty acid methyl esters in kidneys and liver of two patients with Reye's syndrome. Clinica Chimica Acta 84: 179-184, 1978.

Suzuki, Y., Tabata, R. and Ohkawa, K.: Effect of D-galactosamine-HCl on the pulmonary surfactant in the rat. *Exper. Molec. Pathol.* 28: 349-359, 1978.

S. L. Cohen, P. Ho, Y. Suzuki and F. E. Alspector: The preparation of pregnancy urine for an estrogen profile. *Steroids* 32: 279-293, 1978.

Suzuki, Y., Tabata, R. and Ohkawa, K.: Studies of factors influencing lung stability: Biochemical changes of pulmonary surfactant and morphological changes of terminal air spaces in the developing rat. *Japan. J. Exper. Med.* 48: 345-353, 1978.

6. 臨床病理組織学的検査 (木下和之, 細川昌則, 山根すま子, 黒住真史, 病理学部門医局)

本年度より臨床検査部が予算化され, 久世助教授が着任され, 検査技師としても黒住氏に加えられ, 細胞診の screener としてその優秀な技能を発揮しつつあり, 診断医の努力と併せて, 病院の要求に近づく熱心さが示されている。しかし病理解剖に関しては, 尚剖検者の絶対的の不足が隘路をなして居り, 僅かに内Ⅱ北市正則医員他の熱心さが, 夜間の解剖を支えている現状で, 将来の改善が期待されねばならない。

7. 実験介助グループ (松下隆寿, 小岸久美子, 富田由美子)

小池は小岸に, 奥村は富田に, それぞれ改姓された他は, 実質的な移動はない。当研究所勤務8年に近い小岸さんが, 此の度やっと定員に組みこまれた。松下君は実験介助の閑を縫って, 自らの idea で組織染色に関する小実験を行った。来年度に誌上発表される予定である。

細胞化学部門

〔学会・研究会発表〕

堀内正宏, 市川康夫: 組織培養 (軟寒天コロニー法) による白血球の分化, 第45回日本組織培養学会シンポジウム, 53年6月京都

前田道之, 市川康夫: マウス白血病細胞の増殖と分化 IX. M1細胞の分化に伴うCSFの産生, 第37回日本癌学会総会 (昭53.8) 東京

永田和宏, 市川康夫: マウス白血病細胞の増殖と分化 X. 分化形質の発現とRNA及び蛋白合成の必要性, 同上学会

堀内正宏, 市川康夫: マウス白血病細胞の増殖と分化 XI. 比較としての正常白血球の場合—特に液性因子と分化決定との関係について, 同上学会

平井圭一, 永田和宏, 前田道之, 市川康夫: マウス白血病細胞の増殖と分化 XII. 細胞内小器官および酵素活性の変化, 同上学会

平井圭一: Dehydrogenase と Oxidase, 第3回組織細胞化学講習会, 53年10月東京

青木 稔, 伊藤元彦, 平井圭一: Peroxidase 活性を指標としたラット気管腺の分化誘導過程, 第19回日本組織細胞化学学会総会, 53年11月岐阜

〔誌上発表〕

市川康夫: 顆粒球・マクロファージの分化, 代謝 15, 137-143, 1978.

前田道之: 培養血液細胞の分化, 組織培養 4, 303-314, 1978.

永田和宏: 骨髄性白血病細胞の分化—機構解明への一視点—, 化学と生物 16, 807-813, 1978.

J. Yodoi, T. Masuda, M. Miyama, M. Maeda and Y. Ichikawa: Interaction of lymphocytes and macrophage cell line cells (M1 cells). I. Functional maturation and appearance of Fc receptors in M1 cells. *Cell. Immunol.* 39, 5-17, 1978.

〔著 書〕

平井圭一他：組織細胞化学の基礎技術と応用，日本組織細胞化学会編，日本メディカルセンター，53年

細菌血清学

〔学 会 発 表〕

桂義元，高橋千恵：接触過敏症感作に伴って出現する Virus plaque forming T 細胞，第30回国立大学附置研究所結核および胸部疾患談話会，(昭53.11)

桂義元，湊長博，甲野雄次：遅延型過敏症におけるウイルス感受性T細胞の役割，第8回日本免疫学会総会，(昭53.11)

細野正道，藤原道夫，川村明義：免疫寛容誘導に対する抵抗性の発現—加齢に伴う抵抗性脾T細胞の出現機構について，第8回日本免疫学会総会，(昭53.11)

久原孝俊，細野正道，藤原道夫：骨髄中の prethymic T lymphocyte precursors の免疫寛容誘導性，第8回日本免疫学会総会，(昭53.11)

川口進，比留木武雄，喜納辰夫，村松繁：異種赤血球に対するヘビの自然抗体，第8回日本免疫学会総会，(昭53.11)

〔誌 上 発 表〕

Minato, N. and Katsura, Y.: Virus-replicating T cells in the immune response of mice. II. Characterization of T cells capable of replicating vesicular stomatitis virus., J. Exp. Med., 148: 837, 1978.

Minato, N. and Katsura, Y.: Virus-replicating T cells in the immune response of mice. III. Role of vesicular stomatitis virus-replicating T cells in the antibody response., J. Exp. Med., 148: 850, 1978.

Kawaguchi, S., Kina, T. and Muramatsu, S.: Natural hemolytic activity of snake serum. III. Plaque-forming cells in adult and newly-hatched snakes (*Elaphe Quadrivirgata*), Developmental and Comparative Immunology, 2: 287, 1978.

桂義元，高沖悠子：マウス血清を加えた培養液によるマウスリンパ球混合培養，免疫実験操作法，7：2321，1978

臨床肺生理学部，放射線科

〔誌 上 発 表〕

佐川弥之助，他：RCUの現状と問題点，第17回日本胸部疾患学会パネルディスカッション，日胸疾学会誌，16：26，1978.

佐川弥之助：肺内水分量の測定(2) X線の診断法，呼吸と循環，26：69，1978.

佐川弥之助，大井元晴：近畿地区における原発性肺高血圧症例(第2報)，厚生省特定疾患原発性肺高血圧症調査研究班，昭和52年度研究業績，11，1978.

佐藤公彦，李泰興，佐川弥之助：Paraquat 肺における血管系の変化—電顕像を中心として—，同上，203，1978.

佐藤公彦，李泰興，佐川弥之助：Bergamotoil のラット肺に及ぼす影響，同上，207，1978.

佐川弥之助，佐藤公彦，藤田正憲：肝硬変症と原発性肺高血圧症との肺血管系の病理組織学的所見の対比，同上，209，1978.

佐川弥之助：肺内水分量の測定(3) Impedance Plethysmography，呼吸と循環，26：136，1978.

佐川弥之助：肺内水分量の測定(4) double indicator-dilution method (I)，呼吸と循環，26：238，1978.

山田久和：Closing volume に関する実験的ならびに臨床的研究，京大胸部研紀要，11：1，1978.

- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(5) double indicator-dilution method (II), 呼吸と循環, 26 : 320, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(6) 直接法(I), 呼吸と循環, 26 : 428, 1978.
- 佐川弥之助：I. 胸部外科学総論, 3. 病態生理, 新臨床外科全書5. I, 金原出版, 1978.
- 佐川弥之助：呼吸器科の検査, A. 気管支疾患, 検査診断マニュアル, メヂカルフレンド社, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(7) 直接法(II), 呼吸と循環, 26 : 524, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(8) 直接法(III), 呼吸と循環, 26 : 621, 1978.
- 佐川弥之助：呼吸管理, 救急医学セミナー3, 日本救急医学会教育セミナー委員会編, 1978.
- 佐川弥之助：呼吸管理の基礎と実際, 日本C. H. ベーリンガーゾーン K.K., 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(9) 肺リンパ動態(I), 呼吸と循環, 26 : 746, 1978.
- 原沢道美, 梅田博道, 吉村正治, 佐川弥之助編集：臨床呼吸器病ハンドブック, 金原出版社, 1978.
- 佐川弥之助, 折田雄一：細胞診生検, 臨床呼吸器病ハンドブック, 金原出版, 1978.
- 佐川弥之助, 折田雄一：ARDS, 臨床呼吸器病ハンドブック, 金原出版, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(10) 肺リンパ動態(II), 呼吸と循環, 26 : 842, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(11) 肺リンパ動態(III), 呼吸と循環, 26 : 944, 1978.
- 佐川弥之助：肺内水分量の測定(12) 総括, 呼吸と循環, 26 : 1064, 1978.
- 加藤幹夫, 前川暢夫他：特集, 臨床医学の展望, 呼吸器病学〔肺機能をめぐって〕 日本医事新報, 2810 : 3, 1978.
- 加藤幹夫：電解質, 臨床呼吸器病講座第1巻総論, 185, 金原出版, 1978.
- 加藤幹夫：酸塩基調節, 臨床肺機能検査 294, 肺機能セミナー, 1978.
- 加藤幹夫：I. 呼吸器の外科, 呼吸器外科に必要な基礎的知識B生理, 外科学各論 280, 南江堂, 1978.
- 加藤幹夫：呼吸器の外科IV, 術後管理, 外科学各論 303, 南江堂, 1978.
- Kawai, C., Ishikawa, K., Kato, M. and Ishi, Y.: "Pulmonary pulseless Disease" Pulmonary Involvement in so-called Takayasu Disease. *Chest* 73: 651, 1978.
- 加藤幹夫：肝硬変に合併するガス交換障害, 医学のあゆみ 108(8) : 502, 1978.
- 太田和夫, 他：肺機能と側彎症, 第4報, 非観血的療法の肺機能に及ぼす影響について, 中整災誌, 21 : 155, 1978.
- Hisaaki Koie, R. Yasuda et al: Successful resection and replacement of an aneurysm involving entire transverse aortic arch combined with left pneumonectomy. *Archiv für Japanische Chirurgie* 47: 394, 1978.
- 安田隆三郎, 他：左肺全葉の無気肺を伴った梅毒性弓部および下行大動脈瘤の1治験例, 胸部外科, 31 : 405, 1978.
- 田苗英次, 安田隆三郎, 他：出血性ショックに伴う肺不全—とくに, 肺血流と換気の関係について—日本胸部外科学会雑誌, 26 : 847, 1978.
- 西和田誠, 安田隆三郎, 他：低体温, 低血圧を併用したケタミン—ジアゼパム麻酔による胸部大動脈瘤切除術の2症例について.
- 秦野 滋, 安田隆三郎, 他：幼小児開心術に対するケタミン—ジアゼパムの微量持続点滴麻酔法, 臨床麻酔, 2 : 1012, 1978.
- 大井元晴, 藤田正憲, 折田雄一, 浅井信明, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 他：慢性呼吸不全にたいする Doxapram の有効性について, 京大結研紀要, 11 : 29, 1978.
- 大井元晴：慢性呼吸不全にたいする酸素吸入および呼吸刺激剤負荷とその評価, 日本胸部疾患学会雑誌, 16 : 561, 1978.
- Ohi, M., Kato, M. Sagawa, Y., et al: Doxapram hydrochloride in the treatment of acute exacerbation of chronic respiratory failure. *Chest* 74: 453, 1978.
- 佐藤公彦, 佐川弥之助：肺水腫の発来機序—電顕像を中心として—, 臨床生理8, 378, 1978.
- 山田久和, 佐川弥之助：呼吸機能検査法の歩み, *Clinical Laboratory*, 10: 386, 1978.

〔学 会 発 表〕

- 浅井信明：肺挫傷の研究，昭和52年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会，1978.1.
- 佐川弥之助：呼吸管理の基礎知識，救急医学セミナー，1978.1.
- 大井元晴，加藤幹夫，佐川弥之助：酸素吸入による PaCO₂ の上昇およびその治療に関する実験的研究，第16回閉塞性肺疾患研究会，1978.1.
- 佐川弥之助，大井元晴：近畿地区における原発性肺高血圧症例（第2報），厚生省特定疾患原発性肺高血圧調査研究班昭和52年度総会，1978.2.
- 佐藤公彦，李泰興，佐川弥之助：Bergamot oil のラット肺に及ぼす影響，同上.
- 佐川弥之助，佐藤公彦，藤田正憲：肝硬変症と原発性肺高血圧症との肺血管系の病理組織学的所見の対比，同上.
- 浅井信明：肺挫傷にみられる ARDS，第12回京阪神呼吸器疾患談話会，1978.2.
- 佐藤公彦，竹田俊男，佐川弥之助：パラコート肺におけるマクロファージの態度，第9回 FLD シンポジウム，1978.2.
- 弘野慶次郎，市谷迪雄：気管支造影前後の動脈血ガス値の変動，大阪日赤病院集談会.
- 市谷迪雄，弘野慶次郎：術後肺機能改善面よりみた巨大ブラの手術，同上.
- 本原征一郎，安田隆三郎，他6名：ECG-triggered radionuclide biventriculography および ²⁰¹Tl-myocardial Scintigraphy による肥大性心筋症 (HCM) の診断，第42回日本循環器学会総会，1978.3.
- 鯉江久昭，安田隆三郎，他5名：胸部大動脈瘤手術について，第78回日本外科学会総会，1978.4.
- 加藤幹夫：要望課題Ⅳ肺結核の呼吸不全，座長発言，第53回日本結核病学会総会，1978.4.
- 加藤幹夫，島田一恵，大井元彦，佐川弥之助：低酸素血症における吸入 O₂ 濃度と PaO₂ 上昇との関係に関する検討（第2報），第18回日本胸部疾患学会総会，1978.4.
- 太田和夫，佐川弥之助，加藤幹夫，増田 稔，渡辺秀男，加藤 実，小野村敏信：脊柱側彎症の胸郭運動についての臨床的考察，第18回日本胸部疾患学会総会，（昭53.4）
- 藤田正憲，加藤幹夫：Ar+O₂ 1 回吸入法による肺内 N₂ 濃度分布の検討，第18回日本胸部疾患学会総会，（昭53.4）
- 佐藤公彦，李 泰 興，佐川弥之助：Paraquat 肺臓炎に関する実験的研究（第2報）—マクロファージの態度を中心として—，第18回日本胸部疾患学会総会，（昭53.4）
- 大井元晴：慢性呼吸不全にたいする酸素吸入および呼吸刺激剤負荷とその評価，第18回日本胸部疾患学会総会パネルディスカッション，（昭53.4）
- 南 一明，安田隆三郎，他4名：主肺動脈分枝異常を合併したフォロー四徴症に対する Hancock 弁付 conduit 使用に依る根治手術の問題点，第8回日本心臓血管外科学会総会，（昭53.5）
- 佐川弥之助：外科領域にみられる ARDS とその治療，第21回日本胸部外科学会東北地方会特別講演，1978.6.
- 安田隆三郎，他8名：心臓粘液腫の1治験例について，第123回近畿外科学会，1978.6.
- 坪井裕志，市谷迪雄，弘野慶次郎：胸・腹壁の換気運動について，大阪日赤病院集談会，1978.6.
- 弘野慶次郎，市谷迪雄，坪井裕志：肺分画症の1例について，同上.
- Yanosuke Sagawa: Development of present understanding of the Acute Respiratory Distress Syndrome and its pathologic change in the lung, Symposium ARDS, XIII World congress on diseases of the chest, 1978, 7.
- Hisaki Koie, Ryuzaburo Yasuda et al.: Surgical management of thoracic aortic aneurysm, XIII world congress on diseases of the chest 1978, 7.
- Mikio Kato, Kazuo Ohta, Yanosuke Sagawa: Pulmonary Function Impairment is Asymptomatic Idiopathic Scoliosis, A consecutive case study in 79 patients, XIII World Congress on diseases of the chest, 1978, 7.
- 三嶋理晃，浅井信明，佐藤公彦，李 泰 興，佐川弥之助：肺挫傷の実験的研究，三重大学医学部胸部外科学教室研究会，1978.8.
- 佐川弥之助：呼吸不全，第18回臨床肺機能講習会シンポジウム，1978.8.

- 徐 航 霄, 稲葉宜雄: マウス肺に対するオゾン (O₃) 暴露の影響, 大阪赤十字病院集談会, (昭53.9)
- 坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎: 再度肺結核として治療をうけていた1症例, 第3回ヒマン性肺疾患研究会, (1978, 8)
- 坪井裕志, 市谷迪雄, 弘野慶次郎: 胸部外傷急性期における胸・腹壁の換気運動に関する実験的研究, 第6回日本救急医学会総会, 1978.9.
- 市谷迪雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 肺機能の改善面よりみた巨大ブラの手術経験, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)
- 坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷迪雄, 他2名: 胸・腹壁の換気運動の評価について, 第31回日本胸部外科学会総会, (昭53.10)
- 大井元晴, 折田雄一, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全における呼吸刺激剤 (Doxapram hydro-chloride) の役割, 第2回臨床生理研究会, (昭53.10)
- 徐 航 霄, 佐藤公彦, 佐川弥之助: オゾン暴露肺におよぼすビタミンE, その他2,3の薬剤の影響について, 第2回V E近畿シンポジウム, (昭53.10)
- 坪井裕志, 弘野慶次郎, 市谷迪雄, 他2名: 長期結核治療をうけていたびまん性肺疾患症例について, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, (昭53.11)
- 浅井信明, 佐川弥之助, 他: 特発性自然気胸に対する胸腔鏡下胸壁外誘導による気腫性肺嚢胞切除術式とその成績, 同上.
- 藤田正憲, 室本 仁, 他: 非がん肺疾患におけるCTの検討, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1978.11.
- 武山 正, 中山富美子, 佐川弥之助, 矢野博正, 他: 変形性股関節症をともなったカルタグネル症候群の1例, 同上.
- 室本 仁, 藤田正憲, 他: 自然気胸のハイムリッヒ弁による外来通院治療の成績, 同上.
- 佐藤公彦, 李 泰 興, 三嶋理晃, 浅井信明, 佐川弥之助: 興味ある胸部レ線像を呈し, 悪性腫瘍を疑われたテラトーマの1例, 同上.
- 佐川弥之助: 肺内の血管外水分量とその病態生理, 第25回生理科学連合会講演会, 1978.11.
- 田巻俊一, 安田隆三郎, 他10名: ¹³³Xe 冠動脈内投与による心筋局所血流の測定, 第18回日本核医学会総会, 1978.11.
- 弘野慶次郎, 坪井裕志, 市谷迪雄: 家族性に発見された肺吸虫症, 第14回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1978.11.
- 折田雄一, 大道重夫, 久我正: 多彩な経過をたどったびまん性粒状影を呈した患者の1剖検例, 第1回京都大学結核胸部疾患研究所臨床肺生理学部門研究会, 1978.12.
- 稲葉宜雄: PIE 症候群を示した2例について, 同上.
- 弘野慶次郎, 坪井裕志, 市谷迪雄: 肺分画症の1例, 同上.
- 甲斐隆義: 原発性肺放射菌症の1例, 同上.
- 甲斐隆義: 好酸球性縦隔リンパ節炎の1例, 同上.
- 久野健志, 中川正清, 高山幸男, 三嶋理晃: 肺動脈主管閉塞の2症例, 同上.
- 田苗英次, 渡辺 裕, 岡本好史, 小川博暲: 気管支動脈造影で確定できた2,3の症例, 同上.
- 大仏正隆: 心臓手術後の肺機能の評価としての肺胞死腔換気率について, 同上.
- 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦: CT スキャンによる縦隔腫瘍の検討, 同上.
- 山田久和: Closing volume に関する基礎的ならびに臨床的研究, 同上.
- 石部裕一: 肺血管外水分量の in vivo における測定法の研究, 同上.